

令和 5 年 度
事業 報 告 書

社会福祉法人 神奈川県総合リハビリテーション事業団

目 次

I	はじめに	1
1	評議員会・理事会等	2
(1)	評議員会	2
(2)	理事会	2
(3)	評議員選任・解任委員会	3
(4)	役員等名簿	4
2	神奈川県との協定について	5
(1)	神奈川県総合リハビリテーションセンターの管理に関する基本協定	5
3	委員会・協議会	5
(1)	個人情報保護委員会	5
(2)	厚木看護専門学校運営協議会	5
4	運営組織	6
5	役職員	7
II	事業の実施状況	8
1	福祉事業	8
(1)	福祉施設利用状況	12
(2)	地域福祉支援事業の状況	12
(3)	入退所審査会の開催状況	12
(4)	在所児(者)の状況	13
(5)	退所児(者)の状況	14
(6)	施設別苦情受付件数	15
(7)	利用者満足度調査	15
(8)	各福祉施設における特徴的な利用者支援	16
(9)	各福祉施設におけるリハビリテーション・支援の状況	17
(10)	給食業務の状況	20
2	病院事業	21
(1)	病院利用状況	21
(2)	入院及び外来患者の状況	22
(3)	科別手術の状況	23
(4)	紹介・逆紹介件数実績	23
(5)	セカンドオピニオン実績	23
(6)	令和5年度 常勤医師の採用数	23
(7)	退院患者の状況	24
(8)	地域別入院患者の状況	25
(9)	薬剤業務の状況	26
(10)	検査業務の状況	26
(11)	放射線業務の状況	27
(12)	給食業務の状況	28
(13)	理学療法の状況	29

(14) 作業療法の状況	29
(15) 言語訓練の状況	29
(16) 1 患者当りの訓練実施件数の実績	29
(17) 心理検査等の状況	30
(18) 職能訓練の状況	30
(19) 体育指導の状況	31
(20) リハビリテーション工学の状況	31
(21) ブレース・クリニックの実施状況（含む脳卒中装具外来）	32
(22) 総合相談室の状況	32
(23) 相談の状況	32
(24) 地域連携室の状況	33
3 リハビリテーション研究事業	34
(1) リハビリテーションに関する調査、研究・開発	34
(2) 情報提供・情報発信	34
(3) 研究発表会	34
(4) かながわりハビリロボットクリニック（KRRC）の取組	35
(5) 障害者スポーツの支援	36
(6) 専門職向けセミナーの開催	38
4 地域リハビリテーション支援センター事業	39
(1) リハビリテーション専門研修（指定管理事業）	39
(2) 地域リハビリテーション支援関連活動（指定管理事業）	40
(3) 神奈川県リハビリテーション支援センター事業（県委託事業）	40
(4) 高次脳機能障害支援普及事業（県委託事業）	42
5 厚木看護専門学校事業	46
(1) 在籍者の状況	46
(2) 卒業生の就職等の状況	47
(3) 応募者の状況	47
6 地域の保健・医療・福祉への支援事業	48
7 職員確保対策事業	50
(1) 職員充足状況	50
(2) 学資金等の貸付事業の状況	50
(3) こども園保育状況	50
8 職員福利厚生事業	51
(1) 職員宿舍入居状況	51
(2) 健康診断実施状況	51
(3) 貸付事業の状況	51
9 経営計画に基づく取組状況	52
(1) 福祉施設の取組状況	52
(2) 病院の取組状況	53
■令和5年度事業計画の数値目標と実績	54
事業報告の附属明細書	55

I はじめに

わが国では、令和5年5月から新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に移行し、人々の日常生活や社会経済活動は徐々に平時に戻りつつあります。

一方で、少子高齢化・人口減少は着実に進んでおり、ポストコロナの令和の時代に求められる「つながり・支え合いのある地域共生社会」の実現に向けて、医療や介護が必要となった場合にはそれぞれ必要なサービスを受けながらも、住み慣れた地域でなるべく自立して過ごせることを可能としていくために、より一層リハビリテーションの役割の重要性が増しています。

神奈川県においては、全国平均を上回るスピードで人口減少・高齢化の進展が見込まれており、今後の医療ニーズの増大に適切に対応していくために「第8次神奈川県保健医療計画」を策定し、地域医療を担う人材の確保や、多職種の連携に一層取り組むとともに、限られた資源を有効的に活用し、効率的で質の高い保健医療の提供、地域包括ケアシステムの構築を推進していくとしています。また、障害福祉の分野においても、当事者目線の障害福祉推進条例の実効性を担保し、障害者の地域生活移行等を推進することで、共生社会の実現を目指すとしています。

こうした中、当事業団においては、令和5年度における病院・福祉施設等の運営にあたり、感染症への対応や原油・原材料価格の高騰等により経営的な影響を受けながらも、職員一丸となって効果・効率的な運営に取り組み、収益の回復・向上に努め、利用者の特性に配慮した医療・福祉サービスの提供を図るとともに、利用者が自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援してきました。

今後も、日々変化する社会情勢や県の施策に適切に対応し、事業団がこれまで蓄積してきたノウハウについて更に充実を図り、地域共生社会の一翼を担うことで県立施設としての役割を果たしていきます。

1 評議員会・理事会等

(1) 評議員会

令和5年度は、評議員会を1回開催し、下記について審議・報告し、議決結果は次のとおりである。

開催年月日	議 題		議決結果	開催場所
第1回 令和5年 6月27日	第1号議案	令和4年度社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団の決算について	可決	三共横浜 ビル
	第2号議案	理事の選任について	可決	
	第3号議案	監事の選任について	可決	
	報告事項1	令和4年度社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団の事業報告について	了承	

(2) 理事会

令和5年度は、理事会を6回開催し、下記について審議・報告し、議決結果は次のとおりである。

開催年月日	議 題		議決結果	開催場所
第1回 令和5年 6月12日	第1号議案	令和4年度社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団事業報告及び決算報告書の承認について	可決	リハセンター 会議室 現地開催 及び WEB会議 の併用
	第2号議案	職員給与規程の一部改正について	可決	
	第3号議案	生活支援一時金の支給に関する規程の制定について	可決	
	第4号議案	コロナ禍特別貢献手当に関する規程の制定について	可決	
	第5号議案	新理事候補者及び新監事候補者の承認について	可決	
	第6号議案	新評議員候補者の承認について	可決	
	第7号議案	定時評議員会招集の決議について	可決	
	報告事項1	令和4年10月から令和5年3月までの理事長及び専務理事の職務執行状況報告について	了承	
第2回 令和5年 6月27日	第1号議案	理事長の選定について	可決	三共横浜 ビル
	第2号議案	専務理事の選定について	可決	
	第3号議案	評議員選任・解任委員会委員の選任について	可決	
第3回 令和5年 10月6日	第1号議案	新評議員候補者の承認について	可決	書面決議

開催年月日	議 題		議決結果	開催場所
第 4 回 令和 5 年 12 月 5 日	第 1 号議案	手術手当に関する規程の一部改正について	可決	リハセンター 会 議 室 現 地 開 催 及 び WEB 会 議 の 併 用
	報告事項 1	法人指導監査の結果と対応状況について	了承	
	報告事項 2	令和 5 年 4 月から令和 5 年 9 月までの理事長及び専務理事の職務執行状況報告について	了承	
第 5 回 令和 6 年 1 月 10 日	報告事項 1	七沢学園（児童）支援員による利用者への不適切支援について	了承	WEB 会 議 方 式
第 6 回 令和 6 年 3 月 29 日	第 1 号議案	職員被服更新積立金について	可決	リハセンター 会 議 室 現 地 開 催 及 び WEB 会 議 の 併 用
	第 2 号議案	令和 5 年度予算の補正について	可決	
	第 3 号議案	令和 6 年度事業計画及び予算について	可決	
	第 4 号議案	職員給与規程の一部改正について	可決	
	第 5 号議案	学資金等貸付規程の一部改正について	可決	
	第 6 号議案	役員賠償責任保険の締結について	可決	
	報告事項 1	七沢学園（児童）支援員による利用者への不適切支援（その 1）について	了承	
	報告事項 2	七沢学園（児童）支援員による利用者への不適切支援（その 2）について	了承	
	報告事項 3	七沢自立支援ホーム職員による利用者への不適切な言動について	了承	
	報告事項 4	神奈川リハビリテーション病院臨時職員による不適切行為について	了承	
	報告事項 5	理事の常勤・非常勤の別について	了承	

(3) 評議員選任・解任委員会

令和 5 年度は、評議員選任・解任委員会を 2 回開催し、評議員 2 名が選任された。

開催年月日	議 題		議決結果	開催場所
第 1 回 令和 5 年 6 月 16 日	審議事項(1)	評議員の選任について	可決	WEB 会 議
第 2 回 令和 5 年 10 月 31 日	審議事項(1)	評議員の選任について	可決	WEB 会 議

(4) 役員等名簿

(令和6年3月31日現在)

	氏 名	現任期間
評 議 員	井出 康夫	R3.6.29からR7.6 定時評議員会開催日まで
〃	恵比須 享	R5.10.31からR7.6 定時評議員会開催日まで
〃	川島 志保	R3.6.29からR7.6 定時評議員会開催日まで
〃	玉垣 努	R3.6.29からR7.6 定時評議員会開催日まで
〃	内藤 則義	R3.6.29からR7.6 定時評議員会開催日まで
〃	中村 泰巳	R5.6.16からR7.6 定時評議員会開催日まで
〃	山下 巖	R3.6.29からR7.6 定時評議員会開催日まで

役職	氏 名	現任期間
理 事 長	霜尾 克彦	R5.6.27からR7.6 定時評議員会開催日まで
専務理事	竹村 勉	R5.6.27からR7.6 定時評議員会開催日まで
理 事	笹生 正人	R5.6.27からR7.6 定時評議員会開催日まで
〃	篠原 正治	R5.6.27からR7.6 定時評議員会開催日まで
〃	杉山 肇	R5.6.27からR7.6 定時評議員会開催日まで
〃	村井 政夫	R5.6.27からR7.6 定時評議員会開催日まで

役職	氏 名	現任期間
監 事	小川 喜道	R5.6.27からR7.6 定時評議員会開催日まで
〃	中元 文徳	R5.6.27からR7.6 定時評議員会開催日まで

会計監査人	奥津 勉	(奥津公認会計士共同事務所)
-------	------	----------------

※評議員、理事及び監事は五十音順である。

2 神奈川県との協定について

(1) 神奈川県総合リハビリテーションセンターの管理に関する基本協定

当事業団は、平成28年4月1日から令和8年3月31日まで、神奈川県総合リハビリテーションセンター（以下「リハセンター」という。）の指定管理者として指定されている。

指定管理業務の運営にあたっては、「神奈川県総合リハビリテーションセンター条例」第4条の規定により、リハセンターの指定管理業務について神奈川県と当事業団で基本協定を締結し、必要な事項（協定の目的、管理物件、協定期間、業務範囲、事業計画等の策定等）を定め業務を運営している。

また、基本協定に定めるものの他、年度ごとに定める必要がある事項（指定管理料の支払い方法等）については、年度協定を締結している。

3 委員会・協議会

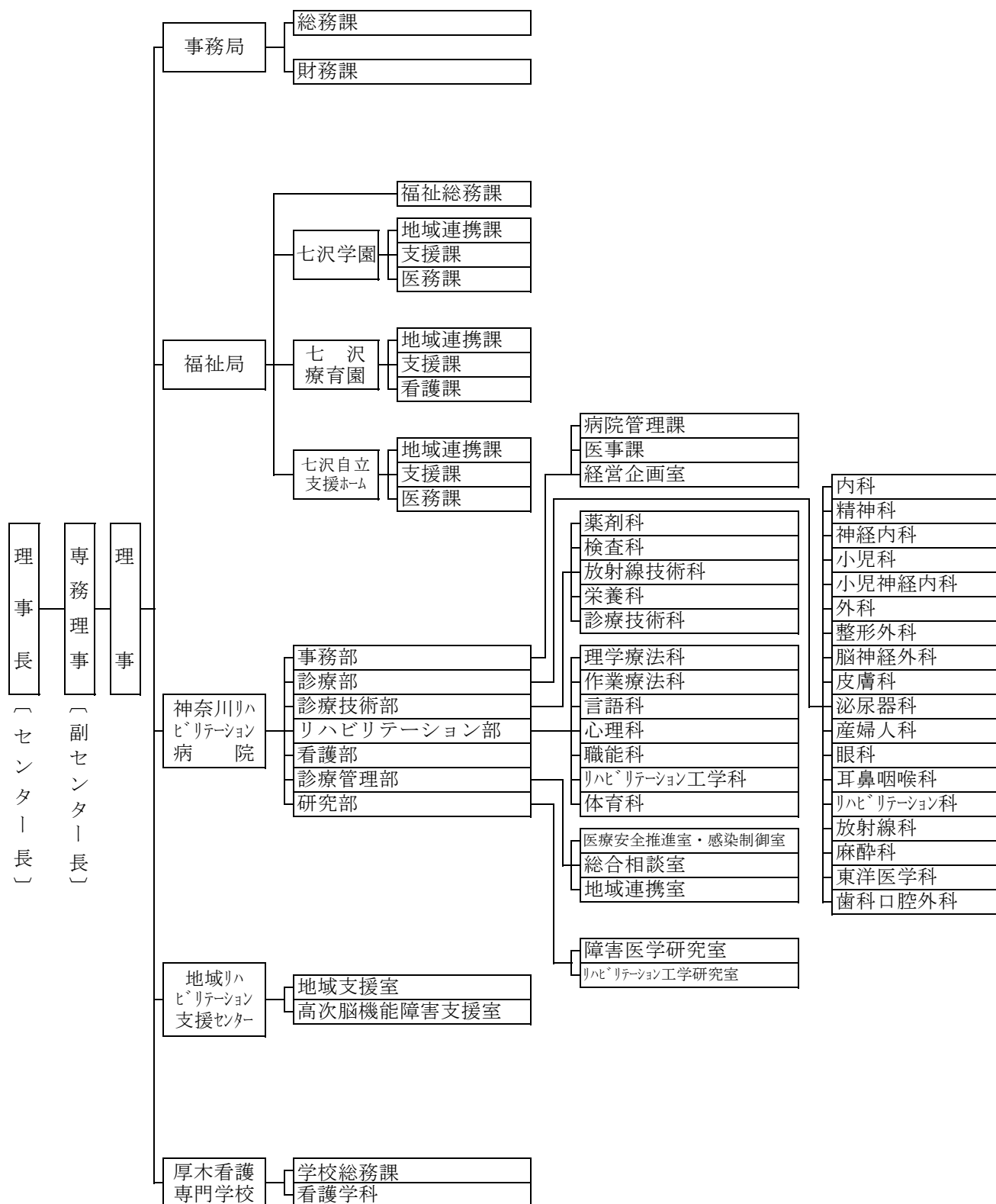
(1) 個人情報保護委員会

令和5年度の個人情報保護委員会は令和6年2月27日に予定していたが、令和6年4月26日に延期となった。

(2) 厚木看護専門学校運営協議会

区 分	開 催 年 月 日	報 告 事 項
第26回	令和6年3月14日	1. 厚木看護専門学校の現状について 2. 自己点検・自己評価、学生確保対策等について 3. その他

4 運営組織（令和6年3月31日現在）



5 役 職 員

令和6年3月31日の職員数は次のとおりである。

(単位 人)

施設名	職 種	医 師	看護職員	理 学 療 法 士	作 業 療 法 士	そ の 他 医療職員	指 導 員	そ の 他 職 員	計
役 員		2	0	0	0	0	0	2	4
事 務 局		0	0	0	0	2	0	12	14
七 沢 学 園		0	0	0	0	0	66	3	69
七 沢 療 育 園		1	21	0	0	0	22	0	44
七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム		1	8	0	0	1	28	0	38
神 奈 川 リ ハ 病 院		30	203	58	36	49	30	59	465
研 究 部		0	0	0	0	0	0	4	4
地域リハ支援センター		0	0	2	1	0	1	0	4
厚 木 看 護 専 門 学 校		0	1	0	0	0	0	24	25
計		34	233	60	37	52	147	104	667

注1 その他医療職員とは、薬剤師、臨床検査技師、聴能検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士、針灸療法士、義肢装具士及び視能訓練士をいう。

2 指導員とは、児童指導員、生活支援員、視覚障害者支援員、職業指導員、体育指導員、ソーシャルワーカー及び心理判定員をいう。

3 その他職員とは、理事、事務職員、工学技術員、診療情報管理士、専任教員、研究員、看護補助員、機能訓練作業員、クランク、保育士及び調剤補助員をいう。

Ⅱ 事業の実施状況

1 福祉事業

七沢学園（福祉型障害児入所施設・障害者支援施設）

七沢学園は、知的障害児を対象にした福祉型障害児入所施設と、成人を対象とした障害者支援施設との複合施設である。

福祉型障害児入所施設では、虐待やその傾向にあるケースと自閉症など広汎性発達障害やADHD（注意欠如多動性障害）等を伴うケースの利用が依然として際立っている。令和5度の利用者数は、入所5人退所7人、一日平均入所者数は25.8人、一日平均入所率は85.9%であった。

また、虐待等の措置入所のほか、1ヵ月～6ヵ月の施設入所を通して、ADLの評価や改善、集団生活での行動観察や評価、家族のレスパイト等の課題を絞り込んで利用する「集中療育」を実施しており、令和5年度の利用者実人数は1人であった。

障害者支援施設の施設入所支援の利用状況は、入所が6人、退所が3人、一日平均入所者数は24.4人で、一日平均入所率は81.5%であった。日中活動支援の生活介護においては、強度行動障害者や医療ケアを必要とする利用者の健康維持を基本に、機能や発達レベルに応じ機能維持訓練や軽作業、歩行訓練を行っており、一日平均利用者数は18.9人、一日平均利用率は99.5%であった。

自立訓練（生活訓練）においては、各々の利用者に合った個別作業を主とした支援を行っており、一日平均利用者数は10.1人、一日平均利用率は59.5%であった。

地域福祉支援事業では、電話や来園による相談支援を延べ288人、知的障害児通所機関巡回指導を延べ223人実施した。

短期入所事業では、家族の休養だけでなく、冠婚葬祭や疾病・出産の緊急対応、不登校・引きこもり対応などの社会的理由、また社会性拡大を目的とした施設体験などの支援も行うこととしているが、今年度5月、新型コロナウイルス感染症の5類に移行に伴い、児童・成人ともに実施を再開した。その他、児童福祉法第33条に基づく緊急一時保護による入所の受入れは実人数52人、延べ人数359人であった。

地域の知的障害者やグループホーム等へ地域移行した退所者及び短期入所のうち生活訓練の受給者証を所持する者を対象として日中活動支援（通所訓練）を提供した、実人数5人、延べ人数482人を受け入れた。

七沢療育園（医療型障害児入所施設・障害者支援施設）

七沢療育園では重度の知的障害と肢体不自由を併せ持つ重症心身障害児者に医療や看護の提供と療育及び日常生活の支援を行うとともに、在宅生活者に短期入所事業を提供した。

令和5年度の入所事業は、入所が5人、退所が6人、一日平均入所者数は37.3人、一日平均入所率は93.2%であった。

今年度、長期利用者が3人死亡したため、年度途中で2人受け入れた。

医療型障害児入所は2人で内1人は一時保護で延べ14人、もう1人は有期限で延べ50人であった。また、有期限の療養介護は1人で延べ58人を受け入れた。

地域福祉支援事業の内、短期入所事業では、在宅の重症心身障害児者の家族等の疾病や休養目的で実人数220人に対し延べ1,244人の受け入れを行った。

「在宅重症心身障害児（者）療育訪問指導事業」の利用者は実人数3人に対して6回行った。

また、神奈川リハビリテーション病院（以下「神奈川リハ病院」という。）の小児科医師が中心となり他診療科医師の協力を得ながら看護師と共に日常的に医療ケアが必要である超・準超重症心身障害

児者の受入れを行った。令和5年度の超・準超重症心身障害児者の受入れ実人数は長期 12 人、短期 31 人で延べ 4,140 人であった。

七沢自立支援ホーム（障害者支援施設）

七沢自立支援ホームは、肢体不自由者及び中途視覚障害者の支援施設として一体的に運営している。

肢体不自由者については、神奈川リハ病院と連携して、身体機能の回復・改善、職業能力・社会生活力の向上に必要な支援を行い、社会参加、家庭復帰が円滑に行えるように努めた。令和5年度の施設入所支援の利用者数は、入所が 27 人、退所が 19 人、一日平均入所者数 24.1 人で、一日平均入所率は 60.3%、また、日中活動支援の自立訓練（機能訓練）は一日平均利用者数が 22.8 人、一日平均利用率は 54.2%であった。

一方、中途視覚障害者に対しては、社会生活力の向上を目指して、歩行能力の回復、点字の読み書き習得、情報機器の活用、身辺管理・家事動作技術の習得、ロービジョン評価・訓練、視覚障害者スポーツなど地域での在宅生活に向けての支援を行った。令和5年度の施設入所支援の利用者数は、入所が 9 人、退所が 11 人、一日平均入所者数 8.2 人で、一日平均入所率は 82.1%、また日中活動支援の自立訓練（機能訓練）は一日平均利用者数が 10.1 人、一日平均利用率は 56.2%であった。

七沢自立支援ホーム全体としては、施設入所支援の一日平均入所者数は 32.3 人、一日平均入所率は 64.7%、日中支援活動（自立訓練）の一日平均利用者数は 32.9 人、一日平均利用率は 54.8%であった。

地域福祉支援事業では、地域における障害者や退所後の利用者等に通所訓練を実施し、実人数 8 人、延べ 562 人で、職場復帰に向けた支援、家庭復帰後の生活の質の向上及び社会生活に向けた支援等を提供した。更に視覚障害者に対しては訪問訓練を実施し、令和5年度の訪問訓練実績は 5 件であった。

また、短期入所事業では、在宅の肢体不自由者、視覚障害者を中心に家族等の疾病、休養などの理由で短期的に利用する者等で実人数 20 人、延べ 142 人の受け入れを行った。

その他に受託評価事業では、肢体不自由児（者）を対象とし、支援学校（支援学級）在学者の進路指導や施設利用者の生活自立支援に資するため、神奈川リハ病院と連携して、医学・心理・職能・社会生活等の評価を行っており、令和5年度の利用者数は実人数 10 人、延べ 50 人であった。また、県内の盲学校等に在籍する視覚障害児（者）を対象に神奈川リハ病院眼科と連携し、視機能・触察能力・日常生活動作・コミュニケーション能力等の評価を行う受託評価事業の利用者数は、実人数 4 人、延べ 20 人であった。

補装具製作では、補装具製作所として神奈川県指定を受け、神奈川リハ病院と連携して、施設利用者や外来患者等の義肢・装具など 11 件の補装具製作及び修理を行った。

苦情解決の実施状況

各福祉施設が提供する福祉サービスに関する、利用者や家族からの苦情については、第三者からなる苦情解決委員を置き、知的障害児者及び身体障害者については月 2 回、重症心身障害児者については月 1 回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年 2 回実施した。なお、令和5年度の苦情等の受付件数は苦情、相談、要望を合わせて福祉施設全体で 67 件であった。

社会福祉施設サービス自己評価会議の実施状況

社会福祉施設サービス自己評価会議を設置し、各福祉施設が提供する福祉サービスの質について自己評価を行い、サービスの質の確保・向上に努めているが、令和5年度の実施状況は次のとおりであった。

施 設 名	実 施 日	実 施 結 果
七沢学園	令和5年11月20日	調査書式は、今年度から神奈川県の新書式に療育園の緊急時の対応項目を加えた、四者択一（設問40問）の新書式で実施した。回収率は前年度の98.5%から97.2%と大きな変化はなく、昨年同様、調査に対する理解が得られ、概ね全職員の意識を反映した結果となった。 各項目の平均では32.3%～100%、トータルでは88.6%が「できている・ほぼできている」との回答を示し、高い評価を示している。中でも『緊急時の対応』の設問に対しては、①「定期的に避難訓練が行われ、参加している」が100%と高評価であった。『入所者の権利・プライバシーを守り、個人の意思を尊重している』の設問に関しては、各項目の平均が91.6%「できている」と高い評価が出ている中で、④「職員のペースになったり、日課の消化となったりしない」の項目では、14.5%が「できていない」と回答。意識や配慮はしながらも職員のマンパワー不足から、急かしたり待たせたりする場面もあるとのコメントが複数確認できた。現場職員の欠員は、利用者支援のサービス低下に直結するため、職員の確保は今後の課題である。 また、『個別状況に応じた計画策定や記録がなされている』の設問に関しては、各項目の平均が、96.4%「できている」と回答している。前年度の同様の項目と比較すると若干、向上が確認できた。個別支援計画に基づく計画的な支援の実践と、都度会議等を通じて見直しを図る学園のケアマネジメントのシステムが職員間に定着していることを示している。 反面、「できている」の回答が70%を下回った項目として、『地域交流室等の空間作りや社会とのつながりの配慮をしている』の、②「地域交流室等が地域の交流の場として活用されている」が、32.3%。①「セミパブリックスペース等、工夫できる空間等をうまく利用している」が、66.2%となっている。また、『家族との連携を図っている』①「家族等との外出・外泊・面会時間の制限はない」の項目では、65.2%となっており、コロナ感染症対策による生活の制限は、緩和されてきたが、地域や家族との連携交流、地域移行支援については、まだ、課題が残る結果となった。
七沢療育園	令和6年1月31日	人権への配慮項目では、同性介護についての評価が59.5%と低かった。利用者に応じた個別支援プログラムの項目は職員の意識が高く高評価であった。日常生活支援サービスの項目では、プライバシーに関しての評価が69.0%となった。生活環境整備項目では「ベッド周りの整頓を心掛けている」が52.4%と低かったため、整理整頓するよう周知した。地域との関わりでは、コロナの影響でボランティアとの交流がほとんどなく、数値が伸びなかった。また、研修の項目もコロナの影響で外部研修の参加機会の減少により低評価だった。

施 設 名	実 施 日	実 施 結 果
七 沢 自 立 支 援ホーム	令和6年1月26日	『人権への配慮』として約95%の職員が利用者の人権を尊重し、苦情申し立ての制度も整備されている他、個別支援計画の作成・実施についても「できている」との回答が多かった。一方で主体的な社会参加への後押しや情報提供については不足していると感じているとの回答が30%近くあり、長らく続いたコロナ対応で生活及び訓練の制限が影響している。 自己評価で最も成績が悪かった項目は『地域との連携』で、特に地域交流については7割以上が「できていない」あるいは「努力を要す」と回答している。一方でボランティアの受け入れと育成については83%が「できている」と回答しており、平均利用期間が1年未満という施設の性質上、個々の利用者が地域交流の機会を持つことが難しい面はあるが、今後も努力事項となる。

(1) 福祉施設利用状況

ア 施設入所支援

(単位 人)

区分	施設名	七 児	沢 童	学 成	園 人	七 小	沢 計	七 療	沢 育	七 園	沢 自	立	支	援	ホ	ー	ム	計
定 員		30		30		60		40		40		40		10		50		150
前 年 度 末 数		25		24		49		37		21		9		30		116		
入 所 者 数		5		6		11		203		27		9		36		250		
退 所 者 数		7		3		10		204		19		11		30		244		
一 日 平 均 数		25.8		24.4		50.2		37.3		24.1		8.2		32.3		119.8		
一 日 平 均 入 所 率 (%)		85.9		81.5		83.7		93.2		60.3		82.1		64.7		80.4		
年 度 末 数		23		27		50		36		29		7		36		122		
年 間 延 数		9,436		8,947		18,383		13,643		8,829		3,003		11,832		43,858		

注1 年度末在在所者数には、3月31日退所者は含まない。注2 七沢療育園は空床型のため、短期利用者を含む。

イ 日中活動支援（障害者支援施設）

(単位 人)

施設名 サービス名	七沢学園（成人）			七沢自立支援ホーム			計
区分	生活介護	自立訓練 （生活訓練）	小 計	肢体不自由	視覚障害	小 計	
定 員	19	17	36	42	18	60	96
日中訓練年間延人数	4,594	2,460	7,054	5,536	2,457	7,993	15,047
一 日 平 均 利 用 者 数	18.9	10.1	29.0	22.8	10.1	32.9	61.9
一 日 平 均 利 用 率 (%)	99.5	59.5	80.6	54.2	56.2	54.8	64.5

注 七沢療育園及び七沢学園（児童）は、児童福祉法による入所であることから日中訓練には該当しない。

(2) 地域福祉支援事業の状況

区分	施設名	七沢学園（児童）		七沢学園（成人）		七沢学園（小計）		七沢療育園		七沢自立支援ホーム		計	
		来 場 延 人 員	来 場 延 人 員	来 場 延 人 員	来 場 延 人 員	来 場 延 人 員	来 場 延 人 員	来 場 延 人 員	来 場 延 人 員	来 場 延 人 員	来 場 延 人 員	来 場 延 人 員	来 場 延 人 員
家族一日利用		17人	40人	0人	0人	(実)17人	40人	0人	0人	0人	0人	17人	40人
家族短期入所		0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
短期入所	(実)119人	269人	(実)156人	355人	(実)275人	624人	(実)220人	1,244人	(実)20人	142人	(実)515人	2,010人	
電話・来園による相談支援	91人	139人	111人	149人	(実)202人	288人	0人	0人	0人	0人	202人	288人	
知的障害児者通所機関等巡回指導	9人	27人	65人	196人	(実)74人	223人	0人	0人	0人	0人	74人	223人	
療育訪問指導事業	0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	6回	6人	0人	0人	6回	6人	
重心親子教室	0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	0回	0人	0人	0人	0回	0人	
通所事業（11イの内数）	0人	0人	(実)5人	482人	(実)5人	482人	0人	0人	(実)8人	562人	(実)13人	1,044人	
受託評価	0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	0人	0人	(実)14人	70人	(実)14人	70人	
一時保護（児童福祉法第33条）	(実)52人	359人	0人	0人	(実)52人	359人	(実)1人	14人	0人	0人	(実)53人	373人	

注 数値は年間実施回数及び年間延人数。七沢学園の知的障害児者通所機関巡回指導と療育訪問指導事業は、児童・成人共通。

(3) 入退所審査会の開催状況

区分	施設名	七沢学園 （児童）	七沢学園 （成人）	七沢療育園	七沢自立支援ホーム （肢体不自由）	七沢自立支援ホーム （視覚障害）	計
開催回数（回）		12	7	12	21	9	61
実数（人）		47	16	468	29	12	572

(4) 在所児（者）の状況（令和6年3月31日現在）

ア 児童相談所

(単位 人)

施設名 \ 児童相談所		横浜市	川崎市	横須賀市	相模原市	計	中央	小田原	平塚	厚木	鎌倉・三浦	大和綾瀬	計
七沢学園（児童）	在所児数	0	0	0	0	0	(1) 2	2	10	7	0	5	(1) 26
七沢療育園	在所児者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	在所児者数	0	0	0	0	0	(1) 2	2	10	7	0	5	(1) 26
	構成比（％）	-	-	-	-	-	7.7	7.7	38.5	26.9	-	19.2	100.0

注 七沢療育園は医療型障害児入所施設分である。

注 () 書きは、3月31日退所者で内書きとする。

イ 市町村

(単位 人)

施設名 市町村	七沢学園 (成人)		七沢療育園	七沢自立支援ホーム (肢体不自由)		七沢自立支援ホーム (視覚障害)		計		
	入 所 者 数	通所者数	入 所 者 数	入 所 者 数	通所者数	入 所 者 数	通所者数	入 所 者 数	通所者数	入所者数 構成比 (%)
横 浜 市	1	1	0	2	0	0	1	3	2	3.1
川 崎 市	4	0	0	2	0	0	0	6	0	6.2
横 須 賀 市	0	0	1	2	0	2	0	5	0	5.2
平 塚 市	5	0	5	1	0	1	1	12	1	12.4
鎌 倉 市	1	0	1	1	0	0	0	3	0	3.1
藤 沢 市	3	0	1	2	0	0	0	6	0	6.1
小 田 原 市	1	0	0	1	0	0	0	2	0	2.1
茅 ヶ 崎 市	0	0	5	0	0	0	0	5	0	5.2
逗 子 市	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1.0
相 模 原 市	2	0	2	3	0	1	2	8	2	8.1
三 浦 市	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1.0
秦 野 市	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1.0
厚 木 市	3	2	5	5	0	1	1	14	3	14.3
大 和 市	0	0	2	2	0	0	0	4	0	4.1
伊 勢 原 市	2	1	1	1	0	0	0	4	1	4.1
海 老 名 市	0	0	1	1	0	2	0	4	0	4.1
座 間 市	0	0	5	0	0	0	1	5	1	5.2
南 足 柄 市	1	0	1	0	0	0	0	2	0	2.1
綾 瀬 市	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1.0
大 磯 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
二 宮 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
葉 山 町	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1.0
箱 根 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
真 鶴 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
湯 河 原 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
寒 川 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
愛 川 町	0	0	3	0	0	0	0	3	0	3.1
清 川 村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
中 井 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
大 井 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
松 田 町	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1.0
山 北 町	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1.0
開 成 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
計	(0) 26	(0) 4	(0) 34	(0) 26	(0) 0	(0) 7	(0) 6	93	10	95.5
県 外	1	0	0	3	0	0	0	4	0	4.1
合 計	(0) 27	(0) 4	(0) 34	(0) 29	(0) 0	(0) 7	(0) 6	97	10	100.0

注 () 書きは、3月31日退所者で内書きとする。

注 七沢療育園は療養介護事業分である。

(5) 退所児（者）の状況

ア 退所先の状況

区 分			七沢学園				七沢療育園		七沢自立支援ホーム						計							
			児童		成人		小計		肢体不自由		視覚障害		小計									
			実数	構成比(%)	実数	構成比(%)											実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)
地域生活	家族同居	就 労 継 続 支 援 B 型 通 所 サ ー ビ ス 高 校 ・ 大 学 進学先 特別支援学級・特別支援学校 三療養成機関(あんま・鍼・灸) 職 業 訓 練 校 等 自 営 職 場 復 帰 新 規 就 労 趣味・サークル活動・家事等 保 護 介 助 小 計	2	42.8	—	30.0	97.5	147	52	97.5	57.9	72.7	63.4	90.6	4	147	54	1	15	221		
	単身生活	就 労 継 続 支 援 B 型 通 所 サ ー ビ ス 高 校 ・ 大 学 進学先 特別支援学級・特別支援学校 三療養成機関(あんま・鍼・灸) 職 業 訓 練 校 等 自 営 職 場 復 帰 新 規 就 労 趣味・サークル活動・家事等 保 護 介 助 小 計	—	—	—	—	—	1	10.5	18.2	13.3	1.6	1	3	4							
	グループホーム	就 労 継 続 支 援 B 型 通 所 サ ー ビ ス 高 校 ・ 大 学 進学先 特別支援学級・特別支援学校 三療養成機関(あんま・鍼・灸) 職 業 訓 練 校 等 自 営 職 場 復 帰 新 規 就 労 趣味・サークル活動・家事等 保 護 介 助 小 計	28.6	100.0	50.0	—	21.1	—	13.3	3.7	9											
												計		5	71.4	(2)	3	100.0	(2)	8	80.0	199
(地域生活)	進学先・職業を再掲	進学先	高 校 ・ 大 学 特別支援学級・特別支援学校 三療養成機関(あんま・鍼・灸) 職 業 訓 練 校 等 小 計	—	—	—	52	25.5	5.3	—	3.3	21.7	52	1	53							
	職業	自 営 職 場 復 帰 新 規 就 職 小 計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
施設等	療 養 介 護 支 援 生 活 介 護 支 援 自 立 訓 練 (機 能 訓 練) 自 立 訓 練 (生 活 訓 練) 就 労 継 続 支 援 B 型 就 労 継 続 支 援 A 型 特 別 養 護 老 人 ホ ー ム 老 人 保 健 施 設 知 的 障 害 児 施 設 そ の 他 旧 法 施 設 小 計	14.3	—	10.0	1.0	10.5	9.1	10.0	2.5	1	1	2	6									
医療機関		1	14.3	—	—	1	10.0	—	—	—	—	—	—	1	0.4							
死亡		—	—	—	0	—	3	1.5	(0)	—	(0)	0	—	3	1.2							
合 計		7	100.0	(2)	3	100.0	(2)	10	100.0	204	100.0	(0)	19	100.0	(12)	11	100.0	(12)	30	100.0	244	100.0

注()書きは、通所者で外書きとする

注療育園については長期・短期利用者の退所児(者)数である。

イ 退所児（者）の在所期間の状況

(単位 人)

施設名			在所期間 退所児 (者) 数	1	1	2	3	4	5	0.5	1	1.5	2	3	5	10	計
				月 未 満	～ 2 月	～ 3 月	～ 4 月	～ 5 月	～ 6 月	～ 1 年	～ 1.5 年	～ 2 年	～ 3 年	～ 5 年	～ 10 年	～ 10 年 以上	
七 沢 学 園	児 童	実 数		1									1	2	3		7
		構 成 比 (%)	-	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	14.3	28.6	42.9	-	100.0
	成 人	実 数	(1) 0	0	0	0	0	0	(1) 0	1	2	0	0	0	0	0	(2) 3
		構 成 比 (%)	-	-	-	-	-	-	-	33.3	66.7	-	-	-	-	-	100.0
	小 計	実 数	(2) 0	1	0	0	0	0	(1) 0	1	2	1	2	3	0	(3) 10	
		構 成 比 (%)	-	10.0	-	-	-	-	-	10.0	20.0	10.0	20.0	30.0	-	100.0	
七沢療育園		実 数	198	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	204
		構 成 比 (%)	97.1	1.0	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.5	1.0	100.0
七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム	肢体不自由	実 数							(1) 3	(1) 14	2						(2) 19
		構 成 比 (%)	-	-	-	-	-	-	15.8	73.7	10.5	-	-	-	-	-	100.0
	視覚障害	実 数		(2) 0			(1) 1	0	(7) 4	(3) 3							(13) 11
		構 成 比 (%)	-	-	18.2	-	9.1	-	36.3	27.3	9.1	-	-	-	-	-	100.0
	小 計	実 数		(2) 0	2	0	(1) 1	0	(8) 7	(4) 17	3	0	0	0	0	0	(15) 30
		構 成 比 (%)	-	-	6.7	-	3.3	-	23.3	56.7	10.0	-	-	-	-	-	100.0
	計		実 数	(1) 198	(2) 3	3	0	(1) 1	0	(9) 7	(4) 18	5	1	2	4	2	(17) 244
			構 成 比 (%)	81.1	1.2	1.2	-	0.4	0.0	2.9	7.4	2.0	0.4	0.8	1.6	0.8	100.0

注 () 書きは、通所者で外書きとする。

注 療育園入所については長期・短期の利用者である。

(6) 施設別苦情受付件数

施 設 名	委員受付			施設受付			外部受付			計		
	苦情	相談	要望	苦情	相談	要望	苦情	相談	要望	苦情	相談	要望
七 沢 学 園 (児 童 ・ 成 人)	0	39	0	1	0	0	1	0	0	2	39	0
七 沢 療 育 園	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0
七沢自立支援ホーム(肢体・視覚)	8	9	6	0	0	0	0	0	0	8	9	6
計	8	48	6	4	0	0	1	0	0	13	48	6

(7) 利用者満足度調査

七沢学園 (児 童 ・ 成 人)	3. 4 / 4 点
七 沢 療 育 園	3. 8 / 4 点
七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム	3. 5 / 4 点

(8) 各福祉施設における特徴的な利用者支援

ア 七沢学園

区分		実人数	延人数	一日平均人数
強度行動障害児者 受入者数 ※1	児童	1	366	1.0
	成人	6	2,196	6.0
医療重度者 ※2		5	1,830	5.0

※1 強度行動障害児者は、県において判定された者以外に、七沢学園において同様の対応が必要な利用者を含む。

※2 医療重度者とは、難治性てんかん、腎不全、胃瘻等で特に医療管理が必要な者をいう。

イ 七沢療育園

区分	実人数	延人数	一日平均人数
超・準超重症児者 受入数 ※1	43 (短期含む) (内長期12)	4,140 (短期含む) (内長期3,306)	11.3 (短期含む) (内長期12)
短期利用者数	220	1,244	3.4

※1 人工呼吸器などの呼吸管理、気管内挿管、頻回の吸引などにより医療管理と看護を必要とする重症心身障害児者

ウ 七沢自立支援ホーム

(7) 単身生活に向けた支援

区分	人数
単身者の地域移行者数	4

注 家族介護者がなく、療養中における住居喪失者や、頸損等重度の障害者への自立した単身生活へ支援

(4) 退所者の障害別内訳

区分	人数
脊髄損傷(うち四肢麻痺)	4
脳外傷者	1
脳血管障害者	14
脳性麻痺	0
二分脊椎	0
その他神経疾患等	0
視覚障害者	11
合計	30

(5) 視覚障害者への訪問訓練実績

区分	件数
訪問訓練実績	5

(9) 各福祉施設におけるリハビリテーション・支援の状況

ア 理学療法の状況

区 分 施 設			人 数		件 数	
			(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)
福 祉 局	七沢学園	児 童	0	－	0	－
		成 人	0	－	0	－
	七 沢 療 育 園		36	40.4	572	17.1
	七沢自立支援ホ一ム		53	59.6	2,772	82.9
計			89	100.0	3,344	100.0

イ 作業療法の状況

区 分 施 設			人 数		件 数		自 助 具 ス プ リ ン ト	自 動 車 そ の 他	A D L 室 訓 練 数	家庭訪問
			(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)				
福祉局	七沢学園	児 童	0	-	0	-	0	0	0	0
		成 人	0	-	0	-	0	0	0	0
	七 沢 療 育 園		6	11.1	106	3.2	0	0	0	0
	七沢自立支援ホーム		48	88.9	3,252	96.8	28	21	83	7
計			54	100.0	3,358	100.0	28	21	83	7

ウ 言語訓練の状況

施設名 区 分	七 沢 学 園		七 沢	七沢自立支援ホーム	計
	児 童	成 人	療育園		
件 数	0	0	23	518	541
構成比 (%)	-	-	4.3	95.7	100.0

エ 職能訓練・支援の状況

施設名 区分		七沢自立 支援ホーム	
		件 数	構成比 (%)
評価	職 能 評 価	8	1.4
	受 託 評 価	515	90.2
作業 支援	事 務 系 作 業	0	-
	手 工 芸 系 作 業	0	-
就労 支援	職 業 準 備 訓 練	0	-
	職 業 準 備 学 習	0	-
	個 別 事 務 系 作 業	48	8.4
職場内リハビリテーション		0	-
相談 支援	本 人 面 接	0	-
	家 族 面 接	0	-
	関 係 者 面 接	0	-
計		571	100.0

オ 心理科の状況

施設名 区 分	七 沢 学 園				七沢療育園		七沢自立支援ホーム				受 託 評 価		計	
	児 童		成 人		七沢療育園		肢体不自由部門		視覚障害部門		受 託 評 価		計	
	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)
心 理 テ ス ト	0	-	18	27.7	0	-	49	34.5	4	2.6	20	100.0	91	29.4
心 理 面 接	0	-	9	13.8	0	-	23	16.2	20	13.2	0	-	52	2.9
行 動 観 察	12	0.7	2	3.1	4	3.8	2	1.4	0	-	0	-	20	7.2
心 理 治 療	1,195	72.9	2	3.1	100	96.2	62	43.7	123	18.2	0	-	1,482	54.0
家 族 面 接 他	434	26.4	34	52.3	0	-	6	4.2	5	3.3	0	-	479	6.5
計	1,641	100.0	65	100.0	104	100.0	142	100.0	152	100.0	20	100.0	2,124	100.0

カ 体育指導の状況

施設名 区 分		七 沢 学 園				七沢自立支援ホーム				計	
		児 童		成 人		肢体不自由部門		視覚障害部門			
		件 数	構成比 (%)	件 数	構成比 (%)	件 数	構成比 (%)	件 数	構成比 (%)	件 数	構成比 (%)
訓 練	室内訓練	0	—	0	—	2,461	77.0	453	78.1	2,914	77.2
	屋外訓練	0	—	0	—	620	19.4	113	19.5	733	19.4
	水泳訓練	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
評 価		0	—	0	—	114	3.6	14	2.4	128	3.4
計		0	—	0	—	3,195	100.0	580	100.0	3,775	100.0

キ リハビリテーション工学の状況

義肢製作及び評価等の状況

施設名 区 分		七沢学園	七沢療育園	七沢自立支援ホーム		計	構成比 (%)
				肢体不自由部門	視覚障害部門		
K R R C		0	0	0	0	0	0.0
義肢製作及び評価		0	0	0	0	0	0.0
補装具製作及び試作		0	0	0	0	0	0.0
歩行・動作計測		0	0	0	0	0	0.0
車いす設計・製作及び評価		0	6	2	0	8	14.5
座 圧 計 測		0	2	2	0	4	7.3
ポジションチェア、製作及び評価		0	32	0	0	32	58.2
意志伝達装置 設計・製作及び評価		0	0	2	0	2	3.6
住宅改修設計および評価		0	0	0	0	0	0.0
エンシェニアリング・サービス		2	2	5	0	9	16.4
計		2	42	11	0	55	100.0
構 成 比 (%)		3.6	76.4	20.0	0	100.0	—

注1 義肢製作及び評価には、修理を含む。

注2 地域支援はその他を含む。

(10) 給食業務の状況

区分 施設名		入 所 児 者 数								短期 利用等 入所者	指導食	検食・ 保存食	計
		常食	構成比	軟流動食	構成比	特別食	構成比	小計	構成比				
七沢学園	児童	26,285	22.5 %	10	0.9 %	0	- %	26,295	22.5 %	524	0	2,925	29,744
	成人	22,490	19.3 %	0	- %	1,098	0.9 %	23,588	20.2 %	746	1,098	0	25,432
七沢療育園		0	- %	29,731	25.4 %	3,798	3.3 %	33,529	28.7 %	2,116	1,098	0	36,743
七沢自立支援ホーム		11,182	9.6 %	0	- %	22,030	18.8 %	33,212	28.5 %	549	0	1,098	34,859
計		59,957	51.4 %	29,741	25.5 %	26,926	23.1 %	116,624	100.0 %	3,935	2,196	4,023	126,778

- 注 1 短期利用等入所者は、受託評価及び短期入所者の給食とする。
 2 七沢学園（成人）及び七沢自立支援ホームの通所者の給食は、入所児者数に含む。

2 病院事業

神奈川リハビリテーション病院（略称「神奈川リハ病院」）

神奈川リハビリテーション病院では、脊髄損傷、脳外傷等の後天性脳損傷（高次脳機能障害）、変形性股関節症等の骨関節疾患、脳血管障害、神経難病、小児神経疾患を中心に早期社会復帰に向けたリハビリテーション医療を行っている。

令和5年度は5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、当院が担っていた感染症対策事業としての役割は一旦の落ち着きを見せ、ポストコロナの体制へと移行した。一般市民向けの集団ワクチン接種は2,800回分程度となり、入院患者数は、延84,756人（実入院患者数1,230人）で、一日平均の入院患者数は231.6人（一日平均入院率82.7%）であった。入院申し込み件数は1,685件で、そのうち承認されたのは1,577人（93.6%）であった。退院患者数は、1,247人で、自宅復帰が1,093人（87.7%）となっている。外来患者数は、延49,439人（一日平均203.5人）であった。

(1) 病院利用状況 (単位 人)	
区 分	神奈川リハ病院
前年度末在院患者数	218
入院患者数	1,230
退院患者数	1,247
一日平均患者数	231.6
一日平均入院率 (%)	82.7
平均在院日数 (日)	67.4
年度末在院患者数	201
年間延入院患者数 (診療実日数366日)	84,756
一日平均外来患者数	203.5
年間延外来患者数 (診療実日数243日)	49,439

※ 平均在院日数は回復期病棟等の入院患者の平均在院日数も含む。

(2) 入院及び外来患者の状況

ア 診療科別の状況

(単位 人)

診療科	区 分	入 院		外 来	
		年間延患者数	構成比 (%)	年間延患者数	構成比 (%)
内 科		50	0.1	4,472	9.0
神 経 内 科		9,695	11.4	2,222	4.5
小 児 科		6,551	7.7	5,300	10.7
外 科		0	－	522	1.1
整 形 外 科		28,730	33.9	14,141	28.6
脳 神 経 外 科		8,507	10.0	4,784	9.7
皮 膚 科		0	－	2,513	5.1
泌 尿 器 科		578	0.7	5,001	10.1
婦 人 科		0	－	0	－
眼 科		0	－	1,211	2.4
耳 鼻 咽 喉 科		0	－	1,418	2.9
リハビリテーション科		30,645	36.2	7,215	14.6
放 射 線 科		0	－	90	0.2
麻 酔 科		0	－	0	－
歯 科 口 腔 外 科		0	－	550	1.1
計		84,756	100.0	49,439	100.0

エ 主な疾患別受入実績 (単位：人)

区分	人数
脊髄損傷者	82
(うち四肢麻痺者)	38
高次脳機能障害者	266
神経難病患者	32
小児神経疾患患者	110

(3) 科別手術の状況

区分 科別	整形外科	泌尿器科	脳外科	内科	耳鼻科	計
件数 (件)	343	31	7	1	1	383
構成比 (%)	89.5	8.1	1.8	0.3	0.3	100.0

(4) 紹介・逆紹介件数実績

区 分	件 数
紹 介	2,015
逆 紹 介 ※	2,014

※ 逆紹介とは、地域のかかりつけ医や介護保険事業所等に診療情報の提供を行う場合や、脳卒中地域連携バスによる地域への情報提供をいう。

(5) セカンドオピニオン実績

件 数
2

(6) 令和5年度 常勤医師の採用数

麻酔科医師	歯科医師
1 人	1 人

(7) 退院患者の状況

ア 退院状況

			転帰(退院経路)									
			自宅		施設		転院		死亡		合計	
			(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
高次脳障害	入院経路	自宅	28	2.2	0	—	1	0.1	0	—	29	2.3
		施設	0	—	1	0.1	0	—	0	—	1	0.1
		転院	176	14.1	10	0.8	23	1.8	0	—	209	16.8
		小計	204	16.4	11	0.9	24	1.9	0	—	239	19.2
脊髄損傷	入院経路	自宅	2	0.2	0	—	0	—	0	—	2	0.2
		施設	0	—	0	—	0	—	0	—	0	0.0
		転院	25	2.0	6	0.5	6	0.5	0	—	37	3.0
		小計	27	2.2	6	0.5	6	0.5	0	—	39	3.1
変形性股関節	入院経路	自宅	166	13.3	0	—	0	—	0	—	166	13.3
		施設	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
		転院	2	0.2	0	—	0	—	0	—	2	0.2
		小計	168	13.6	0	—	0	—	0	—	168	13.5
小児	入院経路	自宅	76	6.1	0	—	1	0.1	0	—	77	6.2
		施設	0	—	2	0.2	0	—	0	—	2	0.2
		転院	35	2.8	2	0.2	10	0.8	0	—	47	3.8
		小計	111	8.9	4	0.3	11	0.9	0	—	126	10.1
その他	入院経路	自宅	266	21.3	3	0.2	0	—	1	0.1	270	21.7
		施設	1	0.1	4	0.3	0	—	0	—	5	0.4
		転院	316	25.3	39	3.1	43	3.4	2	0.2	400	32.1
		小計	583	46.8	46	3.7	43	3.4	3	0.2	675	54.1
全体	入院経路	自宅	538	43.1	3	0.2	2	0.2	1	0.1	544	43.5
		施設	1	0.1	7	0.6	0	—	0	—	8	0.6
		転院	554	44.4	57	4.6	82	6.6	2	0.2	695	55.7
		合計	1,093	87.7	67	5.3	84	6.7	3	0.2	1,247	100.0

(8) 地域別入院患者の状況

(単位 人)

区 分	患者数	構成比 (%)
横 浜 市	120	9.8
川 崎 市	46	3.7
相 模 原 市	77	6.3
横 須 賀 市	15	1.2
鎌 倉 市	14	1.1
逗 子 市	1	0.1
三 浦 市	3	0.2
葉 山 町	0	-
藤 沢 市	40	3.3
茅 ヶ 崎 市	34	2.8
寒 川 町	8	0.7
平 塚 市	65	5.3
秦 野 市	58	4.7
伊 勢 原 市	54	4.4
大 磯 町 ・ 二 宮 町	13	1.1
厚 木 市	338	27.4
大 和 市	15	1.2
海 老 名 市	33	2.7
座 間 市	22	1.8
綾 瀬 市	15	1.2
愛 川 町 ・ 清 川 村	53	4.3
小 田 原 市	37	3.0
南 足 柄 市	8	0.7
足 柄 上 郡	14	1.1
足 柄 下 郡	5	0.4
県 内 計	1,088	88.5
東 京 都	87	7.0
そ の 他	55	4.5
県 外 計	142	11.5
合 計	1,230	100.0

※ 七沢療育園は除く。

(9) 薬剤業務の状況

ア 調剤件数

施設名	区分	処方せん 枚数	内服			外用		
			件数	延剤数	構成比 (%)	件数	延剤数	構成比 (%)
入院		37,132	90,095	709,194	74.9	7,574	49,858	39.3
外来 (施設)		14,823	30,235	1,380,929	25.1	11,690	166,386	60.7
計		51,955	120,330	2,090,123	100.0	19,264	216,244	100.0

施設名	区分	順服			計		
		件数	延剤数	構成比 (%)	件数	延剤数	構成比 (%)
入院		6,123	30,011	87.6	103,792	789,063	70.8
外来 (施設)		870	9,264	12.4	42,795	1,556,579	29.2
計		0	0	0.0	0	0	0.0
計		6,993	39,275	100.0	146,587	2,345,642	100.0

注 構成比は、件数に対する比率で、神奈川リハ病院の入院には七沢療育園を含む。

イ 注射薬払出件数・製剤件数

施設名	注射薬				製剤 件数
	枚数	件数	延剤数	構成比 (%)	
入院	9,699	24,017	25,502	76.4	11
外来	3,809	7,406	7,406	23.6	
計	13,508	31,423	32,908	100.0	

ウ 薬剤管理指導業務

服薬指導延患者数	5,862 人
服薬指導延回数	7,672 回
算定件数	5,721 件

エ 後発医薬品

使用割合	39.1 %
------	--------

(10) 検査業務の状況

検査項目	一般検査	血液学的 検査	臨床化学的 検査	内分泌学的 検査	免疫学的 検査	微生物学的 検査	生理機能 検査	病理学的 検査	解剖	その他検体 検査	計
院内処理件数	75,538	111,819	239,321	2,851	24,397	11,095	4,168	0	0	8,366	477,555
委託件数(外注)	7	74	1,677	364	2,250	19	0	232	0	0	4,623
計	75,545	111,893	240,998	3,215	26,647	11,114	4,168	232	0	8,366	482,178

区分	件数	構成比 (%)
入院	220,284	45.7
外来	261,894	54.3
計	482,178	100.0

(11) 放射線業務の状況

ア 放射線撮影件数

(単位 件)

撮影区分 区 分	透視	撮 影					合 計
		造 影	一 般	断 層	歯 科	小 計	
入 院	64	26	5,911	146	0	6,083	6,147
外 来	76	51	13,198	669	0	13,918	13,994
計	140	77	19,109	815	0	20,001	20,141

イ R I 検査回数

(単位 回)

検査区分 区 分	シンチグラフィ	機 能 検 査	試 料 測 定	計
入 院	51	0	0	51
外 来	215	38	0	253
計	266	38	0	304

ウ コンピュータ X線断層撮影件数

撮影区分 区 分	単 純		造 影		計	
	件 数	回 数	件 数	回 数	件 数	回 数
入 院	1,075	342,704	72	24,551	1,147	367,255
外 来	2,247	637,956	26	11,900	2,273	649,856
計	3,322	980,660	98	36,451	3,420	1,017,111

エ MR 検査件数

撮影区分 区 分	単 純	造 影	計
	件 数	件 数	件 数
入 院	893	10	903
外 来	1,643	14	1,657
計	2,536	24	2,560

(12) 給食業務の状況

ア 病院延給食数

区 分	常 食	軟流動食	特 別 食	検食・保存食	計
食 数	76,161	14,961	156,437	5,795	253,354

イ 栄養指導業務

栄 養 指 導 延 患 者 数	775 人
栄 養 指 導 延 回 数	586 回
算 定 件 数	603 件

(13) 理学療法の状況

施 設 \ 区 分		単位数	人 数		件 数		ブレースクリニック		マッサージ	社会環境 訓練	家庭訪問
			(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)	処方数	対応数			
病 院	入 院	145,290	1,301	62.4	66,991	92.4	243	679	0	6	110
	外 来	11,101	783	37.6	5,527	7.6	467	1,064	0	0	0
計		156,391	2,084	100.0	72,518	100.0	710	1,743	0	6	110

(14) 作業療法の状況

施 設 \ 区 分		単位数	人 数		件 数		自 助 具 ス プ リ ン ト	自 動 車 の 他	A D L 室 訓 練 数	家庭訪問
			(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)				
病 院	入 院	103,715	975	73.1	50,551	96.0	323	996	677	94
	外 来	4,619	358	26.9	2,090	4.0				0
計		108,334	1,333	100.0	52,641	100.0	323	996	677	94

(15) 言語訓練の状況

	入 院	外来個別訓練	外来集団訓練	計
件数	14,699	946	0	15,645
単位数	30,405	2,227	0	32,632
構成比 (%)	94.0	6.0	—	100.0

(16) 1患者当りの訓練実施件数の実績

区分	令和5年度実績
回復期病棟	4.49単位
一般病棟	2.84単位

(17) 心理検査等の状況

区 分	入 院	外 来	計
	件 数	件 数	件 数
心 理 テ ス ト	4,661	1,400	6,061
心 理 面 接	453	14	467
行 動 観 察	1,160	48	1,208
心 理 治 療	7,956	1,864	9,820
家 族 面 接 他	1,922	925	2,847
計	16,152	4,251	20,403

(18) 職能訓練の状況

ア 訓練種別施設別訓練件数

施設名 区分		神奈川リハ病院		計
		入 院	外 来	
		件 数	件 数	件 数
評価	職 能 評 価	2,771	888	3,659
	受 託 評 価	—	—	0
機能訓練	事 務 系 作 業	3,092	504	3,596
	実 務 系 作 業	5,000	152	5,152
就労支援	個 別 事 務 系 訓 練	7,290	2,201	9,491
	個 別 実 務 系 訓 練	1,446	497	1,943
	集 団 訓 練	80	557	637
職場内リハビリテーション		0	0	0
相談支援	本 人 面 接	401	1,604	2,005
	家 族 面 接	8	146	154
	関 係 者 面 接	8	80	88
計		20,096	6,629	26,725

イ 障害別訓練状況

区分	人数
外傷性脳損傷	102
脳血管障害	238
脊髄障害	85
脳疾患	28
知的障害	0
その他	36
合計	489

ウ 障害別就労者数

(単位 人)

区分	新規就労	復職	自営業	合計
外傷性脳損傷	1	12	2	15
脳血管障害	4	49	6	59
脊髄障害	0	5	0	5
脳疾患	0	1	0	1
知的障害	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
合計	5	67	8	80

(19) 体育指導の状況

施設名 区 分		神奈川リハ病院	計
		件 数	件 数
訓 練	室内訓練	9,682	9,682
	屋外訓練	2,421	2,421
	水泳訓練	0	0
評 価		1,216	1,216
計		13,319	13,319

(20) リハビリテーション工学の状況

義肢製作及び評価等の状況

施設名 区 分		神奈川リハ病院		そ の 他	計
		入 院	外 来		
K R R C		0	155	0	155
義 肢 製 作 及 び 評 価		157	368	0	525
補 装 具 製 作 及 び 試 作		5	49	0	54
歩 行 ・ 動 作 計 測		220	118	25	363
車いす設計・製作及び評価		159	71	0	230
座 圧 計 測		91	25	0	116
ボ ジョニング [®] チェア、製作及び評価		16	18	0	34
意 志 伝 達 装 置 設 計 ・ 製 作 及 び 評 価		12	7	0	19
住宅改修設計および評価		0	0	0	0
エンジニアリング [®] ・サービス		237	77	4	318
計		897	888	29	1,814
構 成 比 (%)		49.4	49.0	1.6	100.0

注1 義肢製作及び評価には、修理を含む。

注2 地域支援はその他を含む。

(21) プレース・クリニックの実施状況(含む脳卒中装具外来)

(単位 件)

施設名 区分	入院		外来		七沢療育園		七沢学園		七沢自立支援 ホーム		作製合計	修理合計
	作製	修理	作製	修理	作製	修理	作製	修理	作製	修理	件数	件数
義肢	5	1	25	34	0	0	0	0	0	0	30	35
装具	163	5	190	72	1	0	0	0	1	1	355	78
車椅子	35	11	91	50	4	11	0	2	2	3	132	77
電動車いす	2	3	2	1	0	0	0	0	0	0	4	4
座位保持装置	9	0	32	8	1	1	0	0	0	0	42	9
その他	21	0	11	2	0	0	0	0	4	0	36	2
合計	235	20	351	167	6	12	0	2	7	4	599	205

(22) 総合相談室の状況

ア 総合相談室 相談・対応件数

対象	本人	家族	外部機関	当院スタッフ	その他	合計
件数	5,496	5,411	8,366	10,687	132	30,092

内容	受診入院相談	在宅ケア	活動参加支援	転院・施設 入所	補装具・福祉 機器・住宅改 修	生活支援	その他	合計
件数	2,197	10,227	2,290	1,133	3,358	3,106	12,588	34,899

イ 在宅難病者患者等緊急一時入院

相談件数	利用者延人数	利用実人数	利用延べ日数
4件	2人	2人	20日

ウ アドボカシーの状況

a 内容別件数

区分	苦情	要望	感謝	その他	計
件数	40	49	8	0	97

b 申出者別件数

区分	本人	家族	不明	その他	計
件数	42	16	38	1	97

c 対象別件数(※重複あり)

区分	診療部	看護部	リハ部	管理課	その他	計
件数	11	24	8	60	9	112

(23) 相談の状況

ア 神奈川リハ病院

区 分 施 設 名		相 談 件 数	方法								対象						
			面 接	電 話	訪 問	文 章	カ ン フ ア	情 報 交 換	院 内 調 整	そ の 他	小 計	本 人	家 族	整 へ 道 路 ・ 調 整	外 部 機 関	当 院 ス タ フ	そ の 他
神奈川リハ 病 院	件 数	18,720	4,427	6,553	97	1,042	850	5,132	619	18,720	4,587	4,728	5,196	6,626	48	21,185	
	構成比(%)	98.4%	99.7%	98.8%	96.0%	95.3%	98.8%	97.1%	100.0%	98.4%	99.9%	99.5%	98.4%	96.6%	100.0%	98.4%	
七 沢 療 育 園	件 数	309	15	77	4	51	10	152	0	309	6	22	82	233	0	343	
	構成比(%)	1.6%	0.3%	1.2%	4.0%	4.7%	1.2%	2.9%	0.0%	1.6%	0.1%	0.5%	1.6%	3.4%	0.0%	1.6%	
計	件 数	19,029	4,442	6,630	101	1,093	860	5,284	619	19,029	4,593	4,750	5,278	6,859	48	21,528	
	構成比(%)	100.0%	23.3%	34.8%	0.5%	5.7%	4.5%	27.8%	3.3%	100.0%	21.3%	22.1%	24.5%	31.9%	0.2%	100.0%	

施設名 区分	入受 所 相・ 談 入 院	在宅ケア					活動参加支援				内容		生活支援				その他		小 計
		ケア プラン	高齢 系	サ ー ビ ス	医療 系	参加 プラン	日 中 活 動	就 労	就 学	転院・施設 入所 (有 料)	転院・施設 入所 相 談	補装具・ 福祉 機器	補 装 具	費 用 支 援	経済 生活	家族 支援	疾病 障害 理解	解決 支援 ・ 相談	
神奈川リハ 病院	件数 1,107	2,601	1,932	1,526	3,028	113	564	250	82	220	622	1,155	1,537	399	251	680	605	2,450	24,242
	構成比(%) 99.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	89.8%	100.0%	100.0%	91.2%	99.8%	99.2%	96.9%	96.8%	98.8%	98.9%
七沢 療育園	件数 8	0	0	0	0	0	0	0	0	25	0	0	149	1	2	22	20	29	278
	構成比(%) 0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.2%	0.0%	0.0%	8.8%	0.3%	0.8%	3.1%	3.2%	1.2%	1.1%
計	件数 1,115	2,601	1,932	1,526	3,028	113	564	250	82	245	622	1,155	1,686	400	253	702	625	2,479	24,520
	構成比(%) 4.5%	10.6%	7.9%	6.2%	12.3%	0.5%	2.3%	1.0%	0.3%	1.0%	2.5%	4.7%	6.9%	1.6%	1.0%	2.9%	2.5%	10.1%	100.0%

(24) 地域連携室の状況

ア 入院相談件数等

(単位:件)

相談総数	相談のみ	入院申込数					
			承認前 辞退等	不承認	承認	辞退	入院決定数
2,083	398	1,685	10	98	1,577	360	1,217

イ 相談からの日数

区 分	相談～ 入院までの日数	相談～ 辞退までの日数	相談～ 決定・連絡までの日数
日 数	15.2日	8.9日	8.2日

ウ 地域連携室で受けた相談全体の種類と件数

区 分	入院相談 ・調整	外来受診相談	転院検索調整	他院予約調整	地域との連絡調整	情報提供	在宅療養相談	その他	合 計
件 数	2083	286	29	7	96	178	12	30	2,721

3 リハビリテーション研究事業

神奈川リハビリテーション病院研究部（略称「研究部」）

当研究部は、障害者等の自立促進を目的に、リハビリテーションに関する調査、研究・開発を行っている。また、これらの成果物を対外的に発信する中で、高度専門性の構築も目指している。

(1) リハビリテーションに関する調査、研究・開発

研究は、以下ア～ウを視点に、医学的、工学的、社会福祉学的領域において調査、研究・開発を行い医療・福祉の向上に向け取り組んだ。また、当センターの調査、研究・開発経験を活かし、企業との共同研究、受託研究を実施した。

ア 障害発生の原因の解明とそれに基づく予防対策の確立

イ 障害発生の除去、修復メカニズムの解明

ウ 障害者の自立促進のための研究

研究の主な対象としては、神奈川リハビリテーション病院では、①骨関節疾患（変形性関節症）、②脊髄損傷及び脊髄疾患、③神経難病（小児神経疾患を含む）、④高次脳機能障害（外傷性脳損傷、脳卒中など）である。

(2) 情報提供・情報発信

区分	主な事業
医学・研究等の撮影業務	静止画（事務作業支援含む） 216 件
	動画（編集含む） 188 件
図書業務	文献複写支援件数 12 件
	定期購読中の雑誌
	国内誌 紙媒体 40 タイトル
	国外誌 紙媒体 10 タイトル
	電子媒体 140 タイトル
	(Book 105・Journal 34・その他 1)
研究・研修事業	令和 4 年度製本雑誌
	国内(和雑誌) 104 冊
	国外(洋雑誌) 25 冊
研究・研修事業	神奈川県総合リハビリテーションセンター研究発表会 開催
	神奈川県総合リハビリテーションセンター紀要第 48 号 発行
その他	研修などのポスター作製の支援（プリンター利用の開放）

(3) 研究発表会

神奈川県総合リハビリテーションセンター研究発表会の実施状況は下記のとおりである。

ア 開催回数（通算） 47 回目

イ 日 時 令和 6 年 2 月 21 日(水) 14：20～19：00

ウ 場 所 神奈川リハビリテーション病院 3 階研修室

エ 参 加 者 数 118 名

オ 発 表 内 容

I 一般演題 計 15 題

内訳 看護交流会受賞演題 3 題, 応募口演発表 12 題

II シンポジウム

テーマ 「リハビリテーションの効果を引き出す新たな取り組み
～電気・磁気刺激の活用～」

<座長> 青木 重陽 (神奈リハ病院 診療部 リハビリテーション科医師
リハビリテーション部長)

村田 知之 (研究部)

<シンポジスト>

青木 重陽 (神奈リハ病院 診療部 リハビリテーション科医師 リハ部長)

横山 修 (神奈リハ病院 診療部長 研究部副部長 リハビリテーション科医師)

對間 泰雄 (神奈リハ病院 作業療法士 リハ工学研究室)

古屋 美紀 (神奈リハ病院 理学療法士 リハ工学研究室)

※指定発言

安保 雅博 教授 (東京慈恵会医科大学附属病院 副病院長
リハビリテーション科主任教授 診療部長)

III 特別講演

テーマ 「脳卒中後遺症に対する我々のリハビリテーション治療戦略
～麻痺と失語症について～」

<講演> 安保 雅博 教授 (東京慈恵会医科大学附属病院 副病院長
リハビリテーション科主任教授 診療部長)

<座長> 杉山 肇 病院長 (神奈川リハビリテーション病院 整形外科)

(4) かながわりハビリロボットクリニック (Kanagawa Rehabili Robot Clinic (K R R C)) の取組

筋電義手の処方、訓練など筋電義手の普及に向けた取組、ロボットリハビリテーションの実施、企業・大学研究室への開発支援を行った。なお、今年度はさがみロボット産業特区における実証実験の依頼はなかった。

筋電義手の処方・訓練については、「未来筋電義手センター」として乳幼児を含め実施している。特に乳幼児の患者については、義手に慣れる必要から比較的軽い装飾用義手を装着し欠損肢の延長イメージを得ることから始め、年齢や習熟度に応じて筋電義手へ移行していく。訓練内容については、小児の場合であれば好きな遊びや、日常生活や保育園、学校などにおける課題やニーズに合わせ訓練内容を患者個人ごとに工夫した。また、電極の位置やソケットのフィット感、使用に当たり痛みや不快感が無いよう適切なソケットの製作に取り組んだ。今年度は 11 名の患者が訓練を行い、うち先天性の小児患児 2 人が公費認定を受けた。また、当事者とその家族を集めた家族会「MIRAI ラボ」を開催した。先輩当事者の話や同じ手を持つ子どもたち同士が一緒に遊べるプログラムを提供し、ピアサポートを促すとともに当事者の交流の場、情報交換の場を設けた。

ロボットを活用したリハビリテーションでは、主に脊髄損傷の患者を対象に HAL®、ExoAtlet を活用した歩行訓練を行った。今後、再生医療がさらに本格的に行われると、ロボットを活用したリハビリテーションが有効であると考えており、プロトコルの構築に向け引き続き検討していく。

ア 相談者の状況

区 分	今年度累計	
	件数	構成比
個 人	6	22.2%
本 人	1	3.7%
家 族	5	18.5%
福祉関係施設	0	-
医療機関	6	22.3%
大学・研究機関	5	18.5%
企 業	4	14.8%
国	2	7.4%
地方自治体	1	3.7%
その他	3	11.1%
合 計	27	100.0%

イ 相談内容

項 目	今年度累計	
	件数	構成比
筋電義手	6	22.2%
ロボットリハビリの実施について	1	3.7
実証実験の実施について	6	22.2%
さがみロボット産業 特区関係	-	-%
さがみロボット産業 特区以外の実証実験	6	22.2%
その他	14	51.9%
合 計	27	100.0%

(5) 障害者スポーツの支援

ア かながわ障害者スポーツ支援部門（Kanagawa Para-Sports Support Project（K P S P））

神奈川県における障害者スポーツ・競技・レジャー（以下「障害者スポーツ等」）の拠点として、当院の患者に向けた障害者スポーツ等に関する医療的支援や情報提供、各競技団体と連携し参加と継続につながる総合的な支援を行なっている。障害者スポーツ等に携わる職員の経験や情報を集約し、障害者スポーツ等を担う団体とともに普及・啓発を目指すとともに、それら情報を集約し発信していくための拠点構築を目指している。

こうした病院職員の職種を超えた横断的な連携により、下記のような体験会等の運営やイベントでの普及活動を行っている。

イ 障害者スポーツ体験会の実施

昨年度実施した障害者スポーツ体験会を今年度も障害の有無にかかわらず地域在住の方を対象に4回実施した（表2）。延べ参加者は、障害者40名、一般が61名であり、10歳未満から70歳代まで幅広い方に参加いただいた。参加者からは、「楽しく体験することができた」、「普段では行う機会のないスポーツを体験できた」などの感想も寄せられた。

今回、秦野市の後援のもと、秦野市カルチャーパークの陸上競技場を会場に陸上競技の体験会を実施した。障害者スポーツにおいては実施環境の整備も重要な課題となっており、秦野市で実施することで、近隣の市町村との連携した障害者スポーツの普及や新たな拠点構築について試行した。

表2 障害者スポーツ体験会開催状況

日時	種目	場所
令和5年6月17日	車椅子バスケットボール バドミントン	神奈川リハビリテーション病院
令和5年7月22日	ボッチャ	
令和5年11月25日	ソフトボール	
令和6年2月17日	陸上競技	秦野市カルチャーパーク

ウ 地域イベントでの障害者スポーツ普及活動

令和6年3月16日（土）に開催された厚木市主催の「厚木市スポーツなじみデイ」と同時開催の形をとり、厚木市および厚木市教育委員会の後援のもと、荻野運動公園体育館にて障害者スポーツ体験会を実施した。車椅子バスケットボール、車椅子バドミントン、陸上競技のレーサー、チェアスキーシミュレーターの体験会を行った。参加者は約90名であったが、地域で生活している障害者やその家族だけでなく、幼児から高齢までさまざまな年代の方に参加いただいた。一般の方にとっては、乗る機会の少ない競技用車椅子の乗車体験できるだけでなく、障害者スポーツを通じた障害への理解の促進の場にもつながる機会となった。

また、神奈川県や東京都障害者スポーツ協会等8団体からの依頼を受け、チェアスキーのシミュレータを用いたチェアスキー体験やレーサーを用いた陸上競技体験により障害者スポーツの普及活動をおこなった。



車椅子バスケットボールの体験



バドミントンの体験



ボッチャの体験



ソフトボールの体験



陸上競技（義足）の体験



陸上競技（レーサー）の体験



チェアスキーシミュレーターの体験

(6) 専門職向けセミナーの開催

ア 脊損リハビリテーションセミナー

～生活を豊かにする総合リハビリテーション～

令和5年10月1日（日）に開催し、脊髄損傷者に対する医師や看護師をはじめ、多岐にわたる専門職種の連携とリハビリテーションに携わる専門職の視点や実際の取組を紹介する入門編のセミナーとして脊損のリハビリテーションや地域での支援に携わる方を対象に開催した。

セミナーでは、リハビリテーション科医師による脊髄損傷のリハビリテーションや合併症等の考え方についての講義や看護師や理学療法士、作業療法士など専門職がおこなうリハビリテーションのアプローチを紹介し、総合リハビリテーションに求められる視点や気づきを参加者の皆さまへ提供した。

イ 股関節の治療とリハビリテーション ～歩行再建に向けた運動療法の実際～

令和5年12月10日（日）に医療専門職を対象に開催し、最新の外科的治療の紹介や運動療法の実際について経験豊かな整形外科医や理学療法士から講義や実技を通じて知識・手技・考え方を学べる研修会として、股関節疾患の治療に携わる医療専門職を対象に開催した。

セミナーでは、当院整形外科の医師による股関節治療の実際や手術手技、手術支援機器（ロボット）を用いた手術、術後のリハビリテーションの考え方について講義がありました。後半は、理学療法士による講義と実技、そして症例報告等をおこなうことで、参加者それぞれが臨床場面で活用できる内容を提供した。

4 地域リハビリテーション支援センター事業

地域リハビリテーション支援センターは、地域における障害者・高齢者等へ適切なリハビリテーションサービスを円滑に提供するための人材育成・情報提供・関係機関との連携推進に関する業務を地域支援室と高次脳機能障害支援室で行っている。

地域支援室では、事業団事業と県委託事業である「神奈川県リハビリテーション支援センター」事業として、事業団事業はリハビリテーション専門研修等、県委託事業はリハビリテーション従事者等に向けた相談対応・情報提供、研修等を行っている。

高次脳機能障害支援室では、県委託事業である「高次脳機能障害支援普及事業」の神奈川県内の支援拠点機関として、支援コーディネーターと心理判定員が配置されており、高次脳機能障害者への相談支援、普及啓発活動、研修事業等を行っている。

(1) リハビリテーション専門研修（指定管理事業）

医療・保健・福祉・介護専門職を対象とした研修で、令和5年度は15コースの研修を全て対面形式で実施した。引き続き感染マニュアルに基づく新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を行った。研修終了後、受講生からの感染報告は無かった。延受講者延数は、外部受講者 435 名、事業団職員 21 名で総受講者延数は 456 名であった。研修アンケートでの4段階評価は、平均 3.9 であった。

表1 研修内容と受講者数、評価点等

NO	研 修 名		受講方法	開催日		定員	総受講者 延数	評価/4点
1	摂食嚥下障がいのある方への支援 ～薬剤師の関わり方～		対面	5月27日	土	30人	32名	3.9
2	からだにやさしい 介助入門	起居動作編	対面	6月6日	火	30人	27名	3.9
3	コミュニケーション支援の実際		対面	6月10日	土	30人	29名	4.0
4	からだにやさしい 介助入門	移乗動作編	対面	6月27日	火	30人	31名	3.9
5	セラピストのやめのハンドリング入門		対面	7月22日	土	30人	35名	4.0
6	脳血管障がいの評価と治療		対面	9月9日	土	20人	21名	3.9
7	ポジショニング入門		対面	9月13日	水	30人	32名	4.0
8	(新) ADL 支援の知識と実際		対面	9月16日	土	30人	35名	3.9
9	褥瘡予防セミナー		対面	10月17日	火	30人	30名	3.9
10	脳卒中の方の就労支援		対面	10月21日	土	30人	21名	3.9
11	知的障がいのある方への生活支援		対面	11月14日	火	30人	49名	3.7
12	(新) 在宅における循環機能の低下について ～運動プログラムの工夫とリスク管理		対面	11月25日	土	30人	21名	3.8
13	排泄ケアの知識と実際		対面	11月27日	月	30人	29名	3.8
14	地域生活を支える 支援とは	補装具編	対面	1月27日	土	30人	12名	4.0
15	車いすシーティング		対面	2月3日	土	30人	31名	3.9
合計				開催回数	15回	440名	435名	3.9

(2) 地域リハビリテーション支援関連活動（指定管理事業）

ア 政令市のリハセンターとの連絡会 「かながわ地域リハビリテーション支援連絡会」

平成24年度より情報交換等を目的に開催している。令和5年度は、対面にて2回開催した。

① 開催日：令和5年10月18日（水）

会場：川崎市南部リハビリテーション支援センター テーマ：「装具・日生具について」

② 開催日：令和6年3月6日（水）

会場：川崎市北部リハビリテーション支援センター テーマ：「身体拘束について」

イ 地域医療介護連携会議等への参加

① 「神奈川県小児等在宅医療推進会議」 2回

② 「自立支援協議会」（県、保健福祉圏域、市町村）

- ・神奈川県障害者自立支援協議会 2回
- ・神奈川県障害保健福祉圏域事業調整会議 2回
- ・湘南東部障害保健福祉圏域自立支援協議会 1回
- ・湘南西部障害保健福祉圏域自立支援協議会 1回
- ・県西障害保健福祉圏域自立支援協議会 1回
- ・県央障害保健福祉圏域自立支援協議会 2回
- ・横須賀・三浦障害福祉圏域自立支援協議会 1回

ウ 保健福祉事務所への難病患者支援研修等の協力

保健福祉事務所4か所および保健所1か所の難病患者支援事業に協力した。

① 厚木保健福祉事務所大和センター

実施日：令和5年6月21日・10月4日 依頼事業名：「難病リハビリ相談」

② 平塚保健福祉事務所秦野センター

実施日：令和5年12月22日 依頼事業名：「難病リハビリ教室」

③ 小田原保健福祉事務所足柄上センター

実施日：令和6年1月25日 依頼事業名：「令和5年度難病講演会」

④ 小田原保健福祉事務所

実施日：令和5年9月29日・令和6年3月8日

依頼事業名：「令和5年度難病リハビリ教室」2回

⑤ 藤沢市保健所

実施日：令和6年2月21日 依頼事業名：「難病患者へのコミュニケーション支援」

エ その他の地域リハビリテーション関連事業への協力

- ・相模原公共職業安定所「就労支援セミナー」
- ・神奈川県総合療育相談センター 「身体障害者及び知的障害者福祉担当新任職員研修」
- ・神奈川県精神保健福祉センター 「精神保健福祉基礎研修」
- ・神奈川県鎌倉保健福祉事務所 「精神保健福祉基礎研究」「障害福祉相談員研修会」
- ・厚木市 「自立支援型ケア会議」

(3) 神奈川県リハビリテーション支援センター事業（県委託事業）

ア リハビリテーションの相談対応・情報提供

(ア) リハビリテーション専門相談

令和5年度の相談件数は184件（前年度188件）で昨年度と同程度であった。新規相談件数は114件（前年度106件）であった。訪問件数は延べ26件（前年度26件）であった。令和5年度の傾向として、知的障害に関する相談と横須賀・三浦圏域の件数の増加があった。

表2 障害別の相談件数

リハ専門障害別	件数	構成比
視覚障害	58(42)	31.6%
知的障害	58(27)	31.6%
神経・筋疾患	24(23)	13.0%
脳血管障害	16(21)	11.2%
脳性麻痺	5(23)	2.7%
脊髄障害	4(21)	2.2%
後天性脳損傷 (除く脳血管障害)	3(14)	1.6%
骨関節疾患	3(4)	1.6%
その他	10(12)	5.4%
不明	3(1)	1.6%
合計	184(188)	100.0%

※ 表2～表9の()の数値は前年度実績

表3 相談依頼元の相談件数

リハ専門依頼元	件数	構成比
本人家族	65(59)	35.4%
障害者施設	54(46)	29.4%
障害者 更生相談所	13(0)	7.1%
市町村	12(5)	6.5%
訪問看護事業所	11(15)	6.0%
医療機関	9(6)	4.9%
居宅介護事業所	7(11)	3.8%
保健福祉事務所	5(1)	2.7%
地域包括 支援センター	5(2)	2.7%
障害者 相談支援事業所	1(21)	0.5%
訪問介護事業所	1(1)	0.5%
高齢者施設	0(10)	0.0%
教育機関	0(8)	0.0%
その他	1(3)	0.5%
合計	184(188)	100.0%

表4 保健福祉圏域別相談件数

圏域	件数	構成比
県央	69(55)	37.6%
横須賀・三浦	24(13)	13.0%
湘南西部	19(37)	10.3%
県西	15(16)	8.2%
湘南東部	10(27)	5.4%
横浜市	30(22)	16.3%
川崎市	3(1)	1.6%
相模原市	9(13)	4.9%
県外	5(4)	2.7%
合計	184(188)	100.0%

表5 目的別訪問・来所相談件数(訪問26件来所2件)

訪問・来所の主たる目的	件数	構成比
補装具・福祉用具機器	10(9)	32.2%
訓練プログラム指導	9(4)	14.3%
環境整備	3(2)	7.1%
介護指導	1(4)	14.3%
コミュニケーション支援	1(4)	14.3%
ADL指導	1(3)	10.7%
支援内容検討	0(2)	7.1%
医療	0(0)	0.0%
その他	0(0)	0.0%
合計	25(28)	100.0%

(イ) 視覚障害に関する相談について(スマートサイト)

視覚障害等の専門相談として、神奈川県眼科医会との協力で、神奈川リハビリテーション病院眼科、七沢自立支援ホーム視覚部門と共有し電話で回答している。令和5年度の新規相談件数は48件(前年度32件)、延べ相談件数は58件(前年度42件)であった。そのうち当院外来に8件受診につながった。相談は、かかりつけ医からスマートサイトを教えられて電話をしてくるケースが非常に多かった。

(ウ) 情報提供

ホームページ上で県内のリハビリテーション関係機関情報、リハビリテーション専門研修の開催案内及び募集、広報誌「地域リハビリテーション支援センターだより」等の情報を掲載・発信している。ホームページへのアクセス数は、46,111 件（前年度 45,377 件）で、閲覧数の変動はなかった。

「地域リハビリテーション支援センターだより」はA 3 版両面で、研修や専門相談の事例紹介などを掲載し、約県内 70 機関へ年 6 回配布した。2009 年（平成 21 年）5 月に創刊し 2024 年（令和 6 年）2 月号をもって通算 100 号となった。

イ リハビリテーション従事者等を対象とした研修

地域リハビリテーション連携構築推進事業を県内 2 か所で 2 回行った。対面とオンラインで行い、事後アンケート評価は 3.8～4.0/4.0 であった。

① 秦野市の研修 実施テーマ：「グループホームでの生活支援を長く続けるために」

実施日：①令和 5 年 8 月 22 日（水）②令和 5 年 8 月 29 日（水）

参加人数：延べ 113 名 ①会場 43 名 オンライン 31 名 ②会場 27 名 オンライン 12 名

② 逗子市の研修 実施テーマ：「地域生活を続けるための視点と提案」多職種連携・相談について

実施日：①令和 6 年 1 月 19 日（水）②令和 6 年 2 月 22 日（水）

参加人数：延べ 46 名 ①27 名 ②19 名

(4) 高次脳機能障害支援普及事業（県委託事業）

ア 相談支援事業

(ア) 個別相談

新規相談件数はコロナ禍前に近づいており、「本人・家族」、「地域相談窓口」の割合が増加したほか、「医療機関」からの相談割合は例年並みであった。障害別では、昨年度同様「脳卒中」の割合が高くなっている。圏域別対応件数では、湘南東部在住者の相談件数の割合が増加していた。

表 6 新規相談依頼元の相談件数

区分	件数	構成比
本人・家族	94 (68)	41.9%
医療機関（外来含む）	75 (60)	33.3%
地域相談窓口	36 (23)	16.0%
介護保険関係機関	10 (8)	4.4%
市町村	4 (2)	1.8%
障害者施設	3 (6)	1.3%
家族会	0 (1)	0.0%
その他	3 (2)	1.3%
合計	225 (170)	100.0 %

表 7 新規障害別の相談件数

区分	件数	構成比
脳卒中	102 (83)	45.5%
成人外傷性脳損傷	72 (53)	32.0%
小児脳損傷	10 (8)	4.4%
神経難病	1 (0)	0.4%
脊損・頸損	0 (0)	0.0%
骨・関節疾患	0 (0)	0.0%
不明	3 (3)	1.3%
その他（低酸素脳症等）	37 (23)	13.5%
合計	225 (170)	100.0%

表 8 相談内容別の相談件数（重複）

区分	件数	構成比
生活課題への対応	884 (695)	26.6%
経済・制度利用	592 (568)	17.8%
就労・教育等	432 (263)	13.0%
リハ訓練（通プロ含）	400 (210)	12.0%
家族支援	371 (265)	11.1%
福祉サービス・社会資源	371 (264)	11.1%
医療	239 (233)	7.2%
補装具	16 (3)	0.5%
医療機関紹介	12 (9)	0.4%
看護・介護方法	1 (0)	0.0%
住宅改修	1 (0)	0.0%
福祉機器・用具	0 (0)	0.0%
その他	10 (3)	0.3%
合計	3329 (2513)	100.0%

表 9 相談に対する保健福祉圏域別の件

区分	件数	構成比
横浜	62(48)	13.1%
川崎	22(20)	4.6%
相模原	54(51)	11.4%
県央	95(83)	20.0%
湘南東	72(54)	15.2%
湘南西	61(57)	12.8%
横三	38(40)	8.0%
県西	30(27)	6.3%
県外	38(44)	8.0%
不明	3(1)	0.6%
合計	475(425)	100.0%

（イ）巡回相談事業

巡回相談（当事者家族会）は5か所、延べ50回実施した。延べ参加者は当事者231名、家族205名で、専門相談11件であった。今年度は対面開催で実施したが、一部リモート開催で行った。当事者・家族同士のピアカウンセリング、身近な地域での相談場所としての認識が広がっている。

- ① 相模原（ぷらす☆かわせみ）：第1土曜日
12回（当事者146名、家族61名、支援者48名）内専門相談4件
- ② 藤沢（チャレンジⅡ）：第3水曜日13時から14時30分（家族会）
16回（当事者54名、家族27名、支援者64名） 当事者会（第1水）と家族会（第3水）
- ③ 小田原（おだわら障害者総合相談センター）：第1金曜日
9回（当事者16名、家族40名、支援者18名）内専門相談3件
- ④ 大和（大和市障害者自立支援センター）：第2水曜日
11回（当事者2名、家族77名、支援者27名）内専門相談4件
- ⑤ NPO 法人脳外傷友の会ナナ会 就労を考える会（スペースナナ）：年2回土曜日
2回（当事者13名、支援者4名）

イ 普及・啓発事業

（ア）自立支援協議会

県下圏域の自立支援協議会に参画し、地域の支援機関と連携しながら個別の相談やサービス利用へのコーディネートをはかるとともに、関係機関との地域支援ネットワークの構築を担うものである。

表 10 県・障害福祉圏域・地域自立支援協議会

開催日	圏域	内 容
R5/7/4 R5/7/26 R5/7/31 R5/8/7 R5/8/8 R6/2/8 R6/2/16 R6/2/27 R6/2/28	横須賀・三浦 湘南西部 県西 湘南東部 県央（オンライン） 県央（オンライン） 湘南東部 横須賀・三浦 湘南西部	圏域ネットワーク形成事業の実施報告 各市町村自立支援協議会の実施状況 地域課題の報告及び意見交換等

(イ) 神奈川県障害保険福祉圏域事業調整会議

圏域の事業を円滑に実施するにあたり連絡調整の場として、また地域の課題を吸い上げ、県レベルの自立支援協議会に議題提案するための調整の場として開催されている。

表 11 障害保健福祉圏域事業調整会議

開催日	場 所	内 容
R5/6/21 R5/10/6	アミューあつぎ 希望の丘はだの	各圏域ナビからの事業実施状況報告 県障害福祉課および専門機関より情報提供

(ウ) 神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会

- ・日時：令和6年2月9日（木）15:00～17:00
- ・場所 帆船日本丸（横浜市みなとみらい）

(エ) 政令指定都市との連携

県内での高次脳機能障害者への支援の流れに漏れないように、また地域情報や資源の開拓などを共有しながら相談のシステム化を図っていくために、平成20年度より県・横浜・川崎の核となる機関との高次脳機能障害支援機関連絡会議を年2回実施している。

表 12 高次脳機能障害支援機関連絡会議

開催日	開催場所	参加機関と職種
6/23（金）	オンライン会議	・横浜市総合リハセンター（コディネーター、SW） ・川崎市北部リハセンター（SW、心理、Ns、行政） ・川崎市中部リハセンター（SW、心理、行政） ・川崎市南部リハセンター（SW、行政） ・れいんぼう川崎（SW）
12/15（金）	ユニコムプラザさがみはら	・高次脳機能障害地域活動支援センター（SW） ・相模原市高齢・障害者福祉課障害福祉班 ・かわせみ会（相談員） ・神奈川県総合リハセンター（コディネーター） ・神奈川県障害福祉課

(オ) 相談支援事業所との連携

平塚市の委託相談支援事業所である「ほっとステーション平塚」で「成年後見制度」の研修会、高次脳機能障害家族相談会を開催した。家族8名、支援者2名の参加があった。

(カ) 家族会との連携

地域内研修の共催および協力では、ナナの会と連携し、県内の各地域で高次脳機能障害支援関連の講習会を開催している。令和5年度において、ナナの会が主催して、地域リハビリテーション支援センターが協力を行った講習会を3回開催した（R5/12/3 オンライン研修会、R6/1/13 情文ホールにて開催、参加者は73名、R6/1/28 鎌倉芸術館にて開催、参加者は35名）。

ウ 研修事業

(ア) 研修会の開催

高次脳機能障がいへの普及啓発を目的としたセミナーを年4回実施した。全て対面にて実施した。

表 13 高次脳機能障がいセミナーの受講人数等

No	研修名	開催日		定員	受講者数	開催場所	評価/4
1	高次脳機能障がいセミナー 小児編	R5/7/8	土	30	30	厚木商工会議所	3.8
2	高次脳機能障がいセミナー 理解編	R5/8/26	土	100	65	県総合医療会館	3.9
3	高次脳機能障がいセミナー 実務編	R5/12/9	土	40	46	プロミティあつぎ	3.8
4	高次脳機能障がいセミナー 就労支援編	R6/1/20	土	40	27	藤沢商工会議所	3.8
				210	168		3.8

(イ) ネットワーク育成事業：高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会

県内の各機関が実践している支援や相談等に関する情報を交換・共有することで、各機関の連携強化やネットワーク化を図り、県内の高次脳機能障害支援技術の向上に寄与することを目的として県内事業所（16 事業所）が参加し年2回開催した。

- ・第1回 令和5年7月14日（金）15時～17時 オンライン開催
- ・第2回 令和6年1月16日（木）15時～17時 オンライン開催

(ウ) 事例検討会

令和5年度も例年同様に6回の開催となった。

- ① 令和5年7月28日相模原市事例検討会 参加者 19名
- ② 令和5年9月20日藤沢市事例検討会 参加者 16名
- ③ 令和6年1月23日大和市事例検討会 参加者 34名
- ④ 令和6年2月 2日スペーススナナ事例検討会（オンライン）
- ⑤ 令和6年2月16日相模原市事例検討会（オンライン） 参加者 15名
- ⑥ 令和6年2月28日藤沢市事例検討会（オンライン） 参加者 22名

エ 国との連携：

(ア) 全国高次脳機能障害相談支援コーディネーター会議

支援コーディネーターの知識、制度利用について等、職務の向上と支援施策の均てん化を図るため、平成21年度より支援コーディネーター会議が開催されている。

- ① 令和5年6月28日 オンライン
- ② 令和6年2月16日 オンライン

(イ) 関東甲信越ブロック・東京ブロック合同会議

東京、茨城、埼玉、千葉、神奈川、長野、栃木、群馬、新潟、山梨の10都県の支援拠点機関および各県の主管課等が参加した。各都県の事業実施状況等を情報交換するとともに地域支援ネットワークの構築に必要な協議を行った。

令和5年11月29日 開催方法：オンライン

5 厚木看護専門学校事業

昭和 43 年 4 月に厚木准看護婦学校として開校以来、令和 6 年 5 月で 56 年が経過した。「共に生きる社会」の発展に貢献する神奈川県総合リハビリテーション事業団の基本理念に基づき、神奈川県県央地域の保健・医療・福祉に貢献できる看護師の育成を使命とし、開校以来 4,491 人の卒業生を送り出している。この使命を果たすため、以下の理念に基づいた教育を目指している。

- 学生一人一人の持つ可能性を引き出し、専門職業人として信頼される高い倫理観、自律性を育てる
- 人間と健康に対する理解を深め、自ら考え、看護を探究できる看護の実践者を育成する
- 時代の先見性をもって柔軟に多職種と協働できる専門職業人を育成する

令和 5 年度は、看護学科（第 42 回生）79 人が入学した。同年度 3 月には、医療専門課程である看護学科（第 40 回生）82 人が卒業し、「専門士（医療専門課程）」の称号を付与した。また、同年度 2 月に実施された看護師国家試験に 78 人が合格した。

なお、令和 5 年度卒業生の就職及び進学状況は、県内医療機関への就職 74 人である。

令和 6 年度入学生の応募者状況は定員 80 人のところ 129 人、受験者状況は 119 人であった。受験倍率は 1.5 倍となっている。令和 6 年 4 月には、看護学科（第 43 回生）81 人が入学した。

(1) 在籍者の状況（令和 6 年 3 月 31 日現在）

（単位 人）

区 分		年 度 当 初 在 籍 者 数	年 度 内 の 移 動		年 度 末 在 籍 者 数
学科	学年（定員）		中途入学者数	中途退学者数	
看護学科	1 年（80）	< 0 > 79	0	5	74（0）
	2 年（80）	< 2 > 84	0	4	80（2）
	3 年（80）	< 3 > 85	0	2	83（0）
	計（240）	< 5 > 248	0	11	237（2）

注 年度当初在籍者数の< >書きは、留年者数で内書きとする。

注 年度末在籍者数の（ ）書きは、年度末退学者数で内書きとする。

(2) 卒業生の就職等の状況 (単位 人)

区分	卒業 者数	就職者数			進学 者数	その他
		総数	県内	うち事業団		
			県外	-		
看護学科	82	74	74	24	4	4
			0	-		

(3) 応募者の状況

看護学科（3年課程・全日制）[募集定員80名]

(単位 人)

区分	応募 者数	受験 者数	合格 者数	入学 者数	応募 倍率	受験 倍率	合格率 (%)	入学率 (%)	卒業 者数	国家試験 合格者数	国家試験 合格率 (%)
43回生 (R6年度入学)	129	119	90	81	1.6	1.5	75.6%	90.0%	-	-	-
42回生 (R5年度入学)	154	149	86	79	1.9	1.9	57.7%	91.9%	-	-	-
41回生 (R4年度入学)	236	232	95	85	3.0	2.9	40.9%	89.5%	-	-	-
40回生 (R3年度入学)	208	194	87	86	2.6	2.4	44.8%	98.9%	82	78	95.1%

※応募倍率 = 応募者数 ÷ 募集定員

※受験倍率 = 受験者数 ÷ 募集定員

6 地域の保健・医療・福祉への支援事業

本事業は、センターの持つリハビリテーションの専門機能を地域の関係機関、関係施設等に提供し、センターと各関係機関及び各施設等が相互に連携を図りながら、地域の保健・医療・福祉の向上を目指している。令和5年度は、地域への派遣延人数が24人で、研修事業等への派遣延人数が177人、実習等の受入延人数は2,586人であった。

区 分	事業分類	事業内容	実 績
Ⅰ 地域保健・医療・福祉事業への支援	1 医学的判定・医学的指導への支援	医学的判定支援	厚木市 他3件 延11人
	2 医療・訓練事業への支援	医療・訓練協力	かながわ共同会 他7件 延13人
Ⅱ 研修事業等	1 研修事業への協力（外部機関の専門職員研修会に講師派遣）	(1) 医療関係職員研修	公益社団法人神奈川県看護協会 他25件 延48人
		(2) 福祉関係職員研修	地域リハビリテーション支援センター 他1件 延2人
		(3) 教育関係職員研修	神奈川県特別支援学校進路指導連絡協議会 他19件 延44人
		(4) 各種相談員・ホームヘルパー・ボランティア等研修	NPO法人 脳外傷友の会ナナ 他10件 延14人
		(5) 障害者・介護者（家族）研修	日本高次脳機能障害友の会 他8件 延11人
		(6) 一般住民	横須賀点字図書館 他2件 延10人
		(7) その他	社会福祉法人神奈川県社会福祉士協議会 他15件 延17人

区 分	事業分類	事業内容	実 績
Ⅱ 研修事業等	2 専門職員養成事業等への支援	(1) 学生臨床実習受入 (2) 各種人材養成研修派遣 (3) 非常勤講師派遣 (4) 医療関係者実習受け入れ	(福祉部門) 町田保育専門学校 他 25 校 延 150 人 (神奈川リハ病院) 積善会看護専門学校 他 27 校 延 2,435 人 神奈川県 他 3 件 延 26 人 神奈川県立保健福祉大学 他 3 件 延 5 人 公益社団法人日本看護協会 延 1 人
Ⅲ 障害者福祉行事等への支援	1 障害者スポーツ大会等への支援	身障者スポーツ大会への支援	神奈川県障がい者スポーツ協会 他 9 件 延 52 人
Ⅳ 各種団体運営等への支援	1 各種団体運営等への支援	(1) 国、県、市町村等の公的機関への支援 (2) 民間団体等への支援	厚木市 他 12 件 延 37 人 一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会 他 7 件 延 41 人
Ⅴ 調査研究事業等への支援	1 調査研究事業等への支援	調査研究事業等への支援	国立障害者リハビリテーションセンター 他 1 件 延 3 人
	2 各種委員会への支援	各種委員会への支援	厚木市社会福祉協議会 他 17 件 延 39 人

7 職員確保対策事業

令和5年度の職員確保対策については、所属、職種ごとに補充対象を検討し、求人活動を行った。採用者68人の職種別内訳では、看護職員が最も多く32人（47.0％）となっている。

医師の確保については、大学医局との連携強化を模索するとともに、採用が困難な診療科医師を民間の紹介業者を活用し確保を行った。また、看護職員の確保については、年間を通して適正な医療サービスの提供ができるよう、退職者の補充に加え出産休暇、育児休業等で勤務に就くことができない職員数を加味し、採用を行った。

今後も採用が困難な医師等の安定的な確保に力を注いでいく。

(1) 職員充足状況

(単位 人)

職種別 区 分			総 数	職 種 別 内 訳					
				医 師	看護職員	理学療法士	作業療法士	指導員	その他の職員
定 員			647	44	221	51	38	145	148
現 正 規 員	正 規	令和 4 年度末現在人員	594	35	234	54	33	129	109
		令和 5 年 3 月31日退職	(50)	(5)	(19)	(4)	(2)	(16)	(4)
		令和 5 年度採用	68	7	32	5	6	16	2
		令和 5 年度退職	28	4	16	1	3	2	2
	規 則	職種変更	0	0	1	0	0	0	▲ 1
		令和 5 年度末現在人員	584	33	232	54	34	127	104
		令和 6 年 3 月31日退職	(63)	(7)	(25)	(4)	(5)	(15)	(7)
		臨時	令和 5 年度末現在人員	83	1	1	6	3	20
	計		667	34	233	60	37	147	156
	過 不 足 数			20	▲ 10	12	9	▲ 1	2
充 足 率 (%)			103. 1	77. 3	105. 4	117. 6	97. 4	101. 4	105. 4

注 令和6年3月31日退職欄の（ ）書きは、令和5年度末現在人員の内書きとする。

(2) 学資金等の貸付事業の状況

区 分	学資金貸付		学資金貸付		計	
	(厚木看護専門学校)		(外部養成校)			
	人員	金 額	人員	金 額	人員	金 額
看 護 師	46 人	35,640 千円	5 人	3,000 千円	51 人	38,640 千円

注 看護師に対する学資金等は厚木看護専門学校生は月額70千円、外部養成校学生は月額50千円の貸し付けである。

注 厚木看護専門学校生の貸し付け金額は前年度通り貸し付け分を含む。

(3) こども園保育状況

(単位 人)

区 分	3歳未満	3歳以上	合 計
R4年度末在園児数	9 人	2 人	11 人
R5年3月31日卒園・退園児数	▲ 4 人	▲ 2 人	▲ 6 人
R5年4月1日クラス編成異動児数	4 人	1 人	5 人
R5年度入園児数	12 人	0 人	12 人
R5年度退園児数	▲ 1 人	0 人	▲ 1 人
年度末在園児数	15 人	1 人	16 人

8 職員福利厚生事業

令和5年度の状況は、次のとおりである。

(1) 職員宿舍入居状況

(令和6年3月31日現在)

区 分	宿舍名	内 容	戸または室数	入居数	入居率 (%)
単身者用宿舍	レオパレス等	ワンルーム	31	30	96.8
世帯者用宿舍	七沢アパート	3DK	48	18	37.5
合		計	79	48	60.8

(2) 健康診断実施状況

種 別	実 施 月	対 象 者 数	受診者数	受診率(%)	要精検者
一般定期健康診断					
定期健康診断	第1回 7月	727	718	98.8	88
特定業務従事者健康診断	第2回 1月	578	550	95.2	96
雇用時健康診断	雇用時	68	68	100.0	9
特別定期健康診断					
有機溶剤等取扱者検診	第1回 7月	4	4	100.0	0
	第2回 1月	4	4	100.0	0
電離放射線業務従事者検診	第1回 7月	20	20	100.0	0
	第2回 1月	20	20	100.0	0
被曝線量測定	年12回		300	-	
臨時健康診断					
B型肝炎予防検診(抗原、抗体検査)	7月	対象全職種 70	70	100.0	-
	雇用時	中途採用者 0	0	-	-
B型肝炎予防ワクチン接種	第1回 8月	(希望者) 46	46	100.0	-
	第2回 9月	44	44	100.0	-
	第3回 1月	44	44	100.0	-
インフルエンザ予防ワクチン接種	11月	(希望者)	619	-	-
婦人科系検診(乳・子宮がん検診)	9月、10月	(希望者)	182	-	-
腹部超音波検診	1月	(希望者)	62	-	-
免疫4種抗体検査	7月	対象全職種 66	66	100.0	-
	雇用時	中途採用者 0	0	-	-
人間ドック					
事業団職員	10月～12月	(希望者)	71	-	-
一般衛生管理					
検 便	栄養士年24回		147	-	-

(3) 貸付事業の状況

区 分	人 員	貸 付 額	1 人 平 均
一 般 貸 付	2 人	2,500 千円	1,250 千円
特 別 貸 付	1 人	6,520 千円	6,520
計	3	9,020	3,006

9 経営計画に基づく取組状況

平成 28 年度からリハセンターの第二期指定管理期間が始まり、当事業団は指定管理者として引き続き選定された。これを契機に、当事業団は、平成 28 年 3 月にこれからの 10 年に向けリハセンターの役割・機能発揮と安定的な事業継続が図れるよう経営計画を策定した。

(1) 福祉施設の取組状況

令和 5 年度は、5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行したが、感染予防策もすぐに解除というわけではなく入所施設としては慎重な対応をとり、制限を徐々に緩和した。

昨今、介護、福祉業界の人材不足は深刻な状況であり、当事業団も例外ではなく恒常的な人員不足にある中で、今年度も職員が新興感染症に罹患し休暇を余儀なくされると、その補填は管理職が行う状況は続いた。しかし、感染対策の効果もあり、職員、利用者とも感染は発生したものの断片的なもので収束する結果となった。

令和 5 年度は 5 月以降に、学園、自立支援ホームの施設で、短期入所及び通所利用の受け入れを再開したところ、特に知的障害分野で如実に結果があらわれ、計画数には至らなかったものの、短期入所においては学園児童では 119 名の利用、学園成人では 156 名の利用があり、地域生活の支援貢献につながった。

短期入所以外は、各施設とも全体的に実績においては昨年度と比較してさほど大きな変化はなかったが、自立支援ホームの肢体不自由部門と視覚障害者部門の一体化も 2 年目を終え相互理解が深まり支援も充実した。さらに、当事者目線の障がい福祉の実現に向けた神奈川県での取り組みにおいて、強度行動障害者を対象とした意思決定支援を全県に広げる先駆的施設の一つとして、県の意思決定支援アドバイザー等を受け入れる「意思決定支援実践研修事業」を実施するなど、積極的に県の事業に協力を行った。

一方で、今年度後半に不適切な支援が 3 件発生し、いずれも不適切な支援として虐待通報を行った結果、2 件は虐待の認定を受けることとなった。連続して生じたことは猛省すべきことであり、今後、「虐待防止改善計画」をたて、再発防止に努めていく。

今年度はコロナ禍の感染症対策を緩和しながら、地域支援の再開、身体拘束ゼロに向けた取り組み、意思決定支援の充実を目指してきた。その中で不適切支援の発生においては、支援の質を問われる結果となり、次年度早々に改善計画を打ち立て職員全員が自分のこととして自覚を促す教育と、支える体制を強化して、人権を尊重する当事者目線の支援を実践していく。

(2) 病院の取組状況

令和5年度は5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、コロナ禍が一旦の終息を見せた。当院は昨年度と同様ワクチン接種を実施していたが件数は2,800回ほどと昨年度に比べ半数程度となり徐々に感染対策に重きを置いた制限的行動から、専門性を維持するための研修会参加や学会発表、当院の存在をアピールするための情報発信などの対外的積極的行動にシフトした。

当院の持つ医療資源を活用し、地域医療に貢献するための放射線検査機器外来予約システムの稼働、地域連携室を主体とした周辺のクリニックに対する当院の診療内容の周知と知名度の向上を狙いとした広報活動などにより入院患者数は昨年度を上回る数字となった。また、県の健康医療局とともに活動している筋電義手の取り組みでは「筋電義手バンク」への寄付金が昨年度と比べ倍ほどの金額となり、国土交通省が主管し独立行政法人 自動車事故対策機構（ナスバ）が行う「重度脊髄損傷者受入環境整備モデル事業」では関東で最初の受け入れ病院として選定されるなどリハビリテーションを扱う高度専門的な病院として先進先駆的な役割を果たすこととなった。

病院機能を維持するために必要となる人員の確保では療法士の採用と医師の確保に注力した。療法士については定数以上の人員を確保したが給与等待遇面に起因した退職者も多く、大幅な増員とはならなかった。それでも訓練提供単位数は昨年度を上回り病院収入の底上げに貢献した。医師採用においては常勤の麻酔科医を採用したが定着に至らず、非常勤医師により体制を整えた。手術件数は伸び悩んだが昨年度と同等の件数となっている。年明けには常勤の歯科医師が採用され、取得できる加算が増えるうえ、周術期の患者に対する口腔ケアにより術後の早期回復が図れるほか、翌年度に控える診療報酬改定において特に回復期リハ病棟Ⅰの届出について重要な役割を果たすことになる。

今年度は、ポストコロナとなり当院のおかれた状況の分析や病院の周知活動、高度リハビリテーション医療の提供を維持するために必要な人員の確保など今後、増加する患者を見込んだ体制づくりの期間となったが、利用率を維持し、かつ単価が上昇したことにより病院収入は押し上げられた。病院の収入は昨年度比で1億3千万円程度の増額となった。

■令和5年度事業計画の数値目標と実績

区分		令和5年度 目標①	令和5年度 実績②	差異 ②－①	令和4年度 実績③	差異 ②－③
七沢学園 児童	家庭復帰率	81.0%	71.4%	▲ 9.6%	37.5%	33.9%
	強度行動障害者 (1日当たり受け入れ人数)	2.0人	1.0人	▲ 1.0人	1.0人	0.0人
	集中療育 (年間実利用者数)	8.5人	1.0人	▲ 7.5人	3.0人	▲ 2.0人
	1日平均利用者数	29.4人	25.8人	▲ 3.6人	26.0人	▲ 0.2人
	利用率	98.0%	85.9%	▲ 12.1%	86.7%	▲ 0.8%
七沢学園 成人	家庭復帰率	61.0%	100.0%	39.0%	80.0%	20.0%
	医療重度障害者 (1日当たり受け入れ人数)	3.0人	5.0人	2.0人	5.0人	0.0人
	強度行動障害者 (1日当たり受け入れ人数)	6.0人	6.0人	0.0人	6.0人	0.0人
	1日平均利用者数	27.9人	24.4人	▲ 3.5人	21.8人	2.6人
	利用率	93.1%	81.5%	▲ 11.6%	72.5%	9.0%
七沢学園	満足度	3.1点/4点	3.4点/4点	0.3点	3.4点/4点	0.0点
七沢療育園	超・準超重症児 (1日当たり受け入れ人数)	10.0人	11.3人	1.3人	12.5人	▲ 1.2人
	短期入所 (1日当たり受け入れ人数)	1.9人	3.4人	1.5人	2.5人	0.9人
	満足度	3.7点/4点	3.8点/4点	0.1点	3.9点/4点	▲ 0.1点
	1日平均利用者数	37.8人	37.3人	▲ 0.5人	35.9人	1.4人
	利用率	97.0%	93.2%	▲ 3.8%	92.0%	1.2%
七沢 自立支援 ホーム	家庭復帰率	91.0%	90.0%	▲ 1.0%	90.3%	▲ 0.3%
	満足度	3.0点/4点	3.5点/4点	0.5点	3.5点/4点	0.0点
	1日平均利用者数	47.0人	32.3人	▲ 14.7人	34.0人	▲ 1.7人
	利用率	94.1%	64.7%	▲ 29.4%	68.1%	▲ 3.4%
神奈川 リハビリ テーション 病院	家庭復帰率	81.0%	87.7%	6.7%	87.9%	▲ 0.2%
	年間手術件数	400件	383件	▲ 17件	387件	▲ 4件
	紹介件数	2,300件	2,015件	▲ 285件	2,453件	▲ 438件
	逆紹介件数	1,300件	2,014件	714件	1,652件	362件
	入院患者満足度	3.4点	4.4点	1.0点	3.6点	0.8点
	外来患者満足度		4.2点	0.8点	3.7点	0.5点
	入院患者利用率	90.0%	82.7%	▲ 7.3%	79.5%	3.2%
	一日平均入院患者数	252.0人	231.6人	▲ 20.4人	222.6人	9.0人
	外来1日平均利用数	300.0人	203.5人	▲ 96.5人	208.3人	▲ 4.8人
	後発医薬品目採用率	45.0%	39.1%	▲ 5.9%	36.5%	2.6%
	入院申込みの承認率	90.0%	93.6%	3.6%	—	—
	入院申込みから決定連絡までの日数(	7.0日	8.2日	1.2日	—	—
	常勤医師の 採用	麻酔科医師	1人	0人	—	—
		歯科医師	1人	0人	—	—
1患者当りの訓 練実施件数 (単位)	回復期病棟	6.0単位	4.5単位	▲ 1.5単位	—	—
	一般病棟	4.0単位	2.8単位	▲ 1.2単位	—	—
厚木看護 専門学校	国家試験合格率	100.0%	95.1%	▲ 4.9%	97.7%	▲ 2.6%
	県内就職率	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	事業団への就職人数	25人	24人	▲ 1人	23人	1人

事業報告の附属明細書

令和5年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人

神奈川県総合リハビリテーション事業団